

第二條ニ掲クル會社ノ本法發布以後ニ於ケル貯藏物品ノ購入、建設費ノ増減及債務ノ負擔ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
前項ノ認可ヲ受ケサルモノニ付テハ政府之ヲ承繼セス但シ政府ハ其ノ額ヲ査定シ又ハ相當ノ補償ヲ徴シテ之ヲ承繼スルコトヲ得

第二章 保險會社

第一節 保險業法及施行規則

第一款 保險業法

保險業法(明治三十三年三月
法律第六十九號)

第一章 總則

- 第一條 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
- 第二條 保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
- 第三條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第四條 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的ト爲スコトヲ得ス

第五條 損害保險ヲ目的トスル會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 定款

二 事業方法書

三 普通保險約款

四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

第六條 生命保險ヲ目的トスル會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ前條ニ掲ケタル書類及ヒ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第七條 普通保險約款ニハ左ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

- 一 保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由
- 二 保險契約無効ノ原因
- 三 保險會社カ其義務ヲ免ルヘキ事由
- 四 保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期
- 五 保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失

六 保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ有スル權利義務

七 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與カル權利ノ有無及範圍

第八條 第五條及ヒ第六條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九條 保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ本法及ヒ第五條並ニ第六條ニ掲ケタル書類ノ規定ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ保險會社ヲシテ其事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命シ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命シ其他保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 保險會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ事業ノ停止若クハ取締

役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第二章 株式會社

第十四條 保險ヲ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第二百十條第二號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍

二 設立費用償却ノ方法

第十五條 會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

第十六條 會社ノ資本ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 株式申込證ニハ第十四條及ヒ商法第二百二十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條 會社ハ第十四條及ヒ商法第四百一十一條第一項ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十九條 第五十八條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ準用ス但設立費用及ヒ營業費ノ全額ヲ

償却シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十二條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ合併契約書及ヒ各會社ノ財産目錄並ニ貸借對照表ヲ損害保險ニ在リテハ各被保險者ニ生命保險ニ在リテハ各保險契約者ニ送付シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルコトヲ得ス

被保險者又ハ保險契約者カ前項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ヲ述ヘタル者ノ保險金額カ會社ノ保險金額ノ十分ノ一以上ナルトキハ會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得ス

會社カ前三項ノ規定ニ依リテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル者ニモ對抗スルコトヲ得

會社カ被保險者又ハ保險契約者ニ催告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ會社カ催告ヲ爲ササリシ者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十三條 第七十三條第二項第七十四條及ヒ第七十七條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 第七十八條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第七號第二百二十一條第二號第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條第一項ノ規定ニ依ル催告ヲ爲タルコト、若シ異議ヲ述ヘタル者アルトキハ其者ノ保險金額カ會社 保險金額ノ十分ノ一未滿ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三章 相互會社

第一節 設立

第二十六條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二 名稱

三 事務所ノ所在地

- 四 基金ノ總額
- 五 基金騰出者カ有スヘキ權利
- 六 社員ノ責任ノ種類
- 七 基金及ヒ設立費用ノ償却ノ方法
- 八 剩餘金分配ノ方法
- 九 會社カ公告ヲ爲ス方法
- 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
- 第二十七條 相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス

- 第二十八條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
基金ノ支拂ハ金貨以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十九條 相互會社ノ社員ノ數ハ百人ヲ下ルコトヲ得ス
- 第三十條 發起人ニ非サル者カ社員タラントスルトキハ入社申込證ニ通ニ保險ノ目的及ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス但會社カ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タラントスル者ハ此限ニ在ラス

入社申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 定款作成ノ年月日
- 二 第二十六條ニ掲ケタル事項
- 三 基金ノ騰出者ノ氏名、住所及ヒ其各自カ騰出スル金額
- 四 發起人ノ氏名、住所
- 五 發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其報酬ノ額
- 六 設立ノ際募集セントスル社員ノ數
- 第三十一條 社員カ豫定ノ數ニ滿チタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス

- 創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス
- 第四十三條及ヒ商法第五百十六條第一項第二項第六十一條第三項第四項第六十三條ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス
- 第三十二條 社員カ豫定ノ數ニ滿チタル後六个月内ニ發起人カ創立總會ヲ召集セサルトキハ申込人ハ其申込ヲ取消スコトヲ得
- 第三十三條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第三十四條 取締役ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 第二十六條第一號第二號及ヒ第四號乃至第十號ニ掲ケタル事項
- 二 事務所
- 三 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三十五條 商法第九條第十一條乃至第十五條第十九條乃至第三十八條第四十條第四十一條第四十四條第四十五條第三百三十三條及ヒ第三百三十八條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第二節 社員ノ權利義務

第三十六條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ

第三十七條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ左ノ三種トス

- 一 社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ
- 二 社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

三 社員ノ全員カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

第三十八條 社員ハ會社ニ拂込ムヘキ金額ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十九條 社員カ保險料ノ外會社ノ債務ニ關シ釀出スヘキモノアルトキハ其金額及ヒ其釀出ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 損害保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十一條 生命保險ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第三節 會社ノ機關

第四十二條 相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ハルヘキ機關ヲ設クルコトヲ得此機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十三條 社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 十分ノ一以上ノ社員ハ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定

ムルコトヲ得

商法第六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 商法第五十六條第一項第二項第五十七條第一項第五十八條第一項第五百五十九條第六十一條第一項第三項第四項及ヒ第六十三條ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス

第四十六條 取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ於テ之ヲ選任ス

第四十七條 取締役及ヒ監査役ハ社員タルコトヲ要セス

第四十八條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非サレハ同種ノ保險ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員、業務擔當社員取締役又ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第四十九條 取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社員ノ氏名、住所

二 各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及ヒ保險料

三 第三十七條第三號ノ場合ニ於テ各社員ノ責任ノ限度

第五十條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且社員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

社員及ヒ會社ノ債權者ハ事業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス但起訴ノ請求ヲ爲ス者ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十二條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第五十三條 商法第六十五條乃至第六十七條第六十九條第七十條第七十四條第二項第七十六條第七十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス

第五十四條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第五十一條第一項但書第五十二條及ヒ商法第八十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第五十五條 商法第六十七條第七十九條乃至第八十四條第八十五條第一項第八十六條及ヒ第八十八條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算

第五十六條 基金ハ每事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコトヲ得ス基金ノ釀出者ニ支拂フヘキ利息亦同シ

第五十七條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ每事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス

毎年積立ツヘキ金額及ヒ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ起エサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其一部ヲ償却スルコトヲ得

第五十九條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十七條ノ備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ前條ノ期間内ニ於テ基金ノ釀出者ニ利息ヲ支拂フコトヲ妨ケス

第六十條 基金ヲ償却スルトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六十一條 剩餘金ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ各事業年度ノ終ニ於ケル社員ニ之ヲ分配ス

第六十二條 商法第九十條乃至第九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス

第五節 定款ノ變更

第六十三條 定款ノ變更ハ會社總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ爲スコトヲ得但其決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ取締役ニ委任スルコトヲ得

第三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルトキハ商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第六節 社員ノ退社

第六十五條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス社員ハ事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 死亡

三 破産

四 保險關係ノ消滅

第六十七條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六十九條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當リ會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十條 退社員カ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ其退社員ニ拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

第七十一條 無限責任ヲ負フ社員及ヒ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ其記載後二年間責任ヲ負フ

前項ノ規定ハ第四十條及ヒ第四十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散

第七十二條 相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 社員カ百人未滿ニ減シタルコト

三 社員總會ノ決議

四 合併

五 破産

六 免許ノ取消

第七十三條 任意ノ解散及ヒ合併ノ決議ハ總社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第七十四條 合併ノ認可ヲ申請スルニハ申請書ニ合併契約書、財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十五條 商法第七十五條及ヒ第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第七十六條 相互會社カ解散シタルトキハ合併及ビ破産ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從ヒ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第七十八條 會社カ第七十二條第二號第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ一个月内ニ生シタルトキニ限り保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ經過セサル期間ニ對スル保險料、生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第七十九條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財產ヲ處分スルコトヲ要ス

- 一 一般ノ債務ノ辨濟
 - 二 社員ノ保險金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂
 - 三 基金ノ償却
- 社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ

第八十條 殘餘財產ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス

第八十一條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得但此請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

第八十二條 第四十四條第五十一條第五十四條商法第八十四條第九十條乃至第九十三條第九十七條第九十九條第一百五十九條第一百六十三條第一百七十六條第一百七十七條第一百八十一條第一百八十三條第一百八十四條第一百八十五條第一項第九十三條第二百二十六條第二百二十七條第二百二十八條第一項第二百三十條第一項第二百三十一條乃至第二百三十三條及ヒ民法第七十九條第八十條第八十三條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九節 補則

第八十三條 各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ

第八十四條 相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一定款

二 社員名簿

- 三 社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込證
- 四 主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本
- 五 創立總會ノ決議錄

第八十五條 相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部ト看做シ社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記ト看做ス但之ヲ公告スルコトヲ要セス

第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅又ハ解任ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十八條 第八十四條第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ其合併ニ因ル變更若クハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十九條 非訴事件手續法第二百二十六條第一項第三項第三百二十六條乃至第三百三十九條第四百一十一條乃至第六十五條第七十三條第七十四條第二項第七十五條乃至第七十八條第八十八條第九十三條第一項第二項及ヒ第九十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

ス

第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス

社員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第九十一條 相互會社ニハ營業稅ヲ課セス

第四章 計算

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滯ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九十三條 保險契約者被保險者又保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書式ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十五條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第九十六條 生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ有ス

第五章 罰則

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ得スシテ保險事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十八條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
- 二 生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ
- 三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
- 四 主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
- 五 正當ノ理由ナクシテ本法ノ規定ニ依リ閲覧ヲ許スヘキ書類ヲ閲覧セシメヌ又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セザリシトキ
- 六 第十九條ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ
- 七 第二十二條ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ

八 第九十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

第九十九條 相互會社ノ發起人取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 二 本法ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ
- 三 第三十條第二項ノ規定ニ反シ入社申込證ヲ作ラス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 四 定款、社員名簿、總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表、事業報告書、損益計算書若クハ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金、剩餘金分配ニ關スル議案ヲ事務所ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 五 商法第八十一條ノ規定ニ依ル監査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

第百條 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

- 二 第五十六條乃至第六十條ノ規定ニ違反シテ基金ヲ償却シ其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金分配ヲ爲シタルトキ
- 三 第七十九條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ處分シタルトキ
- 四 商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ社員ノ責任ヲ減少シ又ハ合併ヲ爲シタルトキ
- 五 商法第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
- 第百一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

- 第百二條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第百三條 商法施行法第九十五條乃至第一百六條ハ之ヲ削除ス
- 第百四條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ其商號ニ保險ノ種類ヲ示ササルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其商號ヲ改メ且本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百五條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ營業ノ免許ヲ受ケサリシモノカ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散ヲ命スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百六條第一項第百三十四條第一項第百三十五條及ヒ第百三十五條二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百六條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ遲滞ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第百七條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノカ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第百八條 第三條第四條第八條乃至第十三條第七十三條第二項及ヒ第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ準用ス

第百九條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積立テサルモノハ本

法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス但 補ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ填補ヲ爲シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 第七十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社カ第二十一條又ハ商法第七十四條第三號第五號第七號第一百八條第二百一十一條第二號第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一百十一條 第九十二條及ヒ第九十三條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十二條 第二十條乃至第二十二條及ヒ第七十七條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ準用ス

第一百十三條 第二十條乃至第二十二條及ヒ第七十七條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役及ヒ清算人ニ之ヲ準用ス

第一百十四條 保險會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役カ第四百條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第一百五條 外國人又ハ外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二款 保險業法施行規則

保險業法施行規則(明治三十三年七月(明治三十三年七月臺灣總督府令第六十八號保) (農商務省令十五號)險業法規則ハ本則ト同一ニ付キ之ヲ略ス)

第一條 保險會社ノ發起人ハ發起ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ保險業法第五條及ヒ第六條ニ定メタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 發起認可ノ申請ハ株主又ハ社員ヲ募集スル場合ニ於テハ其募集前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 保險事業免許ノ申請ハ總取締役及ヒ總監査役ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
申請書ニハ保險業法第五條及ヒ第六條ニ掲ケタル書類ノ外非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第六號及ヒ第九號ニ掲ケタル書類又ハ保險業法第八十四條第二項第二號第三號及ヒ第五號ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條 保險會社カ保險業法第八條ノ規定ニ依リ書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ

理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條 保險會社カ商法又ハ保險業法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルキハ遲滯ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第六條 保險會社ハ保險證券竝ニ保險申込書ノ雛形及ヒ廣告ノ目的ヲ以テ調製シタル印刷物ヲ各一部ツ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條 保險證券ニハ保險約款ノ全文ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條 生命保險會社ハ保險業法第七條第六號及ヒ第七號ニ定メタル權利ノ範圍ニ付キ當事者ニ拂渡スヘキ金額其標準若クハ第十三號書式ニ準シ其金額ヲ推知スルニ足ルヘキ表ヲ保險證券ニ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ保險證券ニ添附スルコトヲ要ス
保險證券ニ對シ貸付ヲ爲スヘキコト又ハ將來ノ保險料ノ拂込免除ノ爲メニ保險金額ヲ減少スヘキコトヲ定メタルトキハ亦同シ

第九條 保險會社カ其財産ヲ利用スルニハ左ニ掲ケタル各方法ニ付キ其五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 無擔保貸付ヲ爲スコト
 - 二 同一人ニ貸付又ハ預金ヲ爲シ又ハ同一人ヲ保證人トシテ貸付ヲ爲スコト
 - 三 同一會社ノ株券若クハ債券ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト
 - 四 同一物件ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト
- 前項第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル方法ニ依リ利用シタル金額ハ之ヲ通算ス
- 第十條 事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役及ヒ監査役之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス
- 一 事業年度ニ於ケル定款又ハ普通保險約款ノ變更其他重要ナル事件
 - 二 事業ノ成績(第一號書式ニ準ス)
 - 三 生命保險及ヒ火災保險ニ在リテハ統計(生命保險ニ在リテハ第二號乃至第七號書式、火災保險ニ在リテハ第八號書式ニ準ス)

第十一條 財産目錄、貸借對照表、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金竝ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ハ第九號乃至第十二號書式ニ準シテ之ヲ作ルコトヲ要ス

第十二條 財産目錄ノ一項目中ニ價額三千圓以上ノモノアルトキハ其項目ノ内譯トシテ之ヲ

記載スルコトヲ要ス

百九十二

第十三條 財産目録及ヒ貸借對照表ノ未收保險料中ニハ次ノ事業年度ニ於テ收入スヘキ保險料ヲ算入スヘカラス

第十四條 保險會社ハ支拂備金トシテ左ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス

一 事業年度ニ於テ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキ場合ニ於テ未タ其支拂ヲ爲ササルトキハ其金額

二 事業年度ニ於テ生シタル事故ノ爲メニ保險金額又ハ拂戻金ノ支拂ヲ爲スヘキコトアリト認ムルトキハ其支拂ヲ爲スニ相當ナル金額

第十五條 生命保險會社ノ責任準備金ハ保險料積立金及ヒ未經過保險料ニ區別スルコトヲ要ス

第十六條 生命保險會社カ純保險料式ニ依リテ保險料積立金ヲ算出セサルトキハ貸借對照表中責任準備金ノ下ニ純保險料式ニ依リテ算出シタル金額ヲ附記シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第十七條 生命保險會社ノ未經過保險料ハ箇々ノ契約ニ付キ之ヲ計算セサルトキハ其事業年度ニ收入シタル保險料ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條 損害保險會社ノ責任準備金ハ事業年度ニ於テ收入シタル保險料(再保險者ニ支拂ヒタル保險料ヲ控除ス)中ヨリ其年度ニ於テ保險料ヲ收ハシタル契約ノ爲メニ支拂ヒタル保險金額(再保險者ヨリ得タル保險金額ヲ控除ス)其契約ノ爲メニ積立ツヘキ支拂準備金及ヒ其年度ノ營業費ヲ控除シタル殘額ヲ下ルコトヲ得ス

第十九條 損害保險會社カ危險ノ發生セサル場合ニ於テ保險料ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ爲スヘキ契約ヲ爲ストキハ事業年度ニ收入シタル保險料中ヨリ先ツ拂戻ニ充ツヘキ部分ヲ控除シ其殘額ニ付キ前條ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ責任準備金ハ拂戻積立金ノ總額及ヒ前條ノ計算ニ依リテ生シタル殘額ノ合計額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ計算シタル責任準備金カ保險契約ノ未經過期間ニ對シ不足ナルトキハ會社ハ相當ノ増額ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條 責任準備金算出ノ爲メニ用ヒタル統計表、計算表其他算出ノ基礎及ヒ順序ヲ知ルニ必要ナル材料ハ次回ノ責任準備金算出ヲ結了スルマテ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第二十二條 任意ノ解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表及ヒ保險契約ノ整理ニ關スル案ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十三條 合併ノ認可申請書ニハ保險業法第七十四條ニ掲ケタル書類ノ外理山書、總會ノ決議録及ヒ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

合併ノ認可アリタル後六个月内ニ合併ノ手續ニ著手セサルトキハ認可ハ其效力ヲ失フ

第二十四條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ本店又ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

前項ノ書類ハ強靱ナル美濃判大ノ料紙ヲ用ユルコトヲ要ス但印刷物ハ此限ニ在ラス

第二十五條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ニシテ日本語ヲ以テ認メサルモノハ之ニ其譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十六條 保險會社ノ發起人又ハ保險會社カ農商務大臣ニ差出スヘキ書類中外國ノ貨幣ヲ以テ價額ヲ示シタル項目ニハ大藏大臣カ告示スル内外貨幣比較表ニ依リ日本ノ貨幣ニ換算シタル金額ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十七條 前二十四條ノ規定ハ保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ准用ス但保險業法施行ノ日ヨリ六个月内ハ第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二十八條 保險業法施行前ニ設立シタル保險會社ノ定款ノ規定ニシテ本則ノ規定ニ抵觸ス

ルモノハ其施行ノ日ヨリ六个月内ニ之ヲ改ムコトヲ要ス

第二十九條 保險業法施行前ニ設立シタル會社カ其財産ヲ利用シタル方法カ第九條ノ制限ニ反スルモノ之ヲ改ムコトヲ要セス但保險業法施行ノ後其利用ノ方法ヲ變更スルトキハ第九條ノ制限ノ趣旨ニ從フコトヲ要ス

第三十條 商法施行前ニ設立シタル合名會社又ハ合資會社ニシテ保險ヲ目的トスルモノカ其組織カ變更シテ之ヲ株式會社ト爲サントスルトキハ其認可申請書ニ理由書、決議録、財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

附則

第三十一條 明治三十二年農商務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス
書式 (別記雛形ハ之ヲ略ス)

第二節 外國保險會社

第一 外國保險會社ニ關スル勅令

勅令第三百八十號(明治三十三年九月)

第一條 外國會社カ日本ニ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ムトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ム

ルコトヲ要ス

百九十六

商法第六十二條ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第二條 外國會社ハ其日本ニ於ケル事業ノ本據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第三條 外國會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一 定款

二 日本ニ於ケル事業ノ方法書

三 普通保險約款

四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類

五 最終ノ財産目録貸借對照表及ヒ損益計算書

六 生命保險ヲ目的トスルモノニ在リテハ責任準備金利用ノ方法ヲ記載シタル書類

前項第一號乃至第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル書類ノ變更ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生セス

第四條 外國會社カ主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ其日本ニ於ケル事業ノ停止若クハ代表者ノ改任ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第五條 主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ外國會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

外國會社カ供託ヲ命セラレタル場合ニ於テハ主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ其金額ニ代フルコトヲ得

第六條 日本ニ於ケル保險契約者被保險者保險金額ヲ受取ルヘキ者又ハ外國相互會社ノ社員ハ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七條 外國相互會社ノ日本ニ於ケル一般ノ債權者ハ社員及ヒ外國ニ於ケル債權者ニ對シ供託物ノ上ニ優先權ヲ有ス

第八條 外國會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其日本ニ於ケル事業ノ報告書ヲ作り之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九條 外國會社ノ本國ニ於テ作りタル財産目録、貸借對照表、事業報告書及ヒ損益計算書ハ遲滞ナク之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第十條 外國會社ノ代表者ハ定款、日本ニ於ケル社員ノ名簿及ヒ前一條ニ掲ケタル書類ヲ日本ニ於ケル事業ノ本據ニ備フルコトヲ要ス

日本ニ於ケル保險契約者被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ前一條ニ掲ケタル書類ノ

閱覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル處ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第十一條 外國會社カ其事業ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ依リテ優先權ヲ有スル者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供スルニ非サレハ供託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條 主務官廳カ日本ニ支店又ハ事務所ヲ設ケタル外國會社ノ免許ヲ取消シタルトキハ其處分確定ノ後遲滯ナク其旨ヲ支店又ハ事務所ノ所在地ノ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ支店又ハ事務所ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第十三條 外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル

一 本令ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 第八條又ハ第九條ニ掲ケタル書類ヲ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第十四條 外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上十圓以下ノ過料ニ處セラル

一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ

二 生命保險ト損害保險トヲ併セテ營ミタルトキ

三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

四 主務官廳ノ檢査ヲ妨ケタルトキ

五 主務官廳ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六 正當ノ理由ナクシテ本令ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメヌ又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セサリントキ

第十五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ニ定メタル過料ニ之ヲ進用ス

第十六條 保險業法第一條第三條第四條第七條第九條乃至第十一條及ヒ第九十七條ノ規定ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

第十七條 商法第九條第十一條乃至第十七條第十九條乃至第三十八條第四十條第四十一條第二百五十五條乃至第二百五十八條及ヒ保險業法第八十五條第八十六條第九十條第九十一條ノ規定ハ外國相互會社ニ之ヲ準用ス

第十八條 各登記所ニ外國相互保險會社登記簿ヲ備フ

第十九條 外國相互會社カ日本ニ事務所ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ其日本ニ於ケル事業ノ本據及ヒ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且之ニ左

ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 主タル事務所ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面
 - 二 代表者タル資格ヲ證スル書面
 - 三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
 - 四 日本ニ於ケル社員ノ名簿
 - 五 主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本
- 前項第一號乃至第三號ノ書面ハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二十條 外國相互會社代表者カ支配人ノ選任ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其日本ニ於ケル事務所設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ且之ニ支配人ノ選任ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十一條 非訟事件手續法第百二十九條第百四十一條乃至第百四十九條第百五十一條第百五十四條乃至第百六十五條第百七十三條第一項第百七十四條第二項第百七十三條及ヒ第二十四條ノ規定ハ外國相互會社ニ之ヲ準用ス

第二十二條 第一條乃至第六條第八條乃至第十一條及ヒ第十三條乃至第十六條ノ規定ハ外國

人カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ之ヲ準用ス

附 則

第二十三條 本令ハ明治三十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 本令施行前ニ日本支店事務所又ハ代理店ヲ設ケタル外國人又ハ外國會社ハ其施行ノ日ヨリ六箇月内ニ其日本ニ於ケル事業ノ本據ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第二十五條 第四條乃至第十五條第十七條第二十條保險業法第一條第三條第四條第九條乃至第十一條第九十七條及ヒ非訟事件手續法第百七十三條第一項第百七十四條第二項ノ規定ハ本令施行前日本ニ支店、事務所又ハ代理店ヲ設ケタル外國人又ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

第二 外國保險會社ニ關スル省令

農商務省令第十九號(明治三十三年十月)

第二條 外國會社ノ保險事業ノ免許ノ申請ハ代表者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
申請書ニハ明治三十三年勅令第三百八十號第三條ニ掲ケタル書類ノ外本店又ハ主タル事務所ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 外國會社カ明治三十三年勅令第三百八十號第三條第一項第一號乃至第四號及ヒ第六

號ニ掲ケタル書類ノ變更ノ認可申請ヲ爲スニハ申請書ニ理由書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 外國會社カ商法又ハ明治三十三年勅令第三百八十號ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス但社員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第四條 外國會社カ解散、合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツルコトヲ要ス

第五條 明治三十三年農商務省令第十五號第六條乃至第八條第十條及ヒ第十四條乃至第二十一條ノ規定ハ外國會社ノ日本ニ於ケル事業ニ之ヲ準用ス

第六條 明治三十三年農商務省令第十五號第二十四條乃至第二十六條ノ規定ハ外國會社ニ之ヲ準用ス

第七條 前五條ノ規定ハ本令施行前ニ免許ヲ受ケタル外國會社ニ之ヲ準用ス但本令施行ノ日ヨリ一年間ハ明治三十三年農商務省令第十五號第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則

第八條 本令ハ明治三十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第三章 信託會社

第一節 擔保附社債信託法及施行期日

擔保附社債信託法(明治三十八年三月法律第五十二號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ

第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ

第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 動産質
- 二 證書アル債權質
- 三 不動産抵當
- 四 船舶抵當
- 五 鐵道抵當

六 工場抵當

七 鑛業抵當

第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依ル場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ又ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第七條 信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 信託會社カ法令定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタ

ルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ

因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第八十八條第八十九條第九十六條第二項第百條第二百二十六條第二項第二百

二十八條第二項又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ

爲ス

商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコト

ヲ得

第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス主務官廳ハ何時ニテモ前項ノ監督ニ必要

ナル検査ヲ爲スコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會

社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セサルトキハ日本ニ於ケル

代表者ヲ定ムヘシ

商事會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得
第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

日本ニ於クル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ

第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ

- 一 委託會社及受託會社ノ商號
- 二 社債ノ總額
- 三 各社債ノ金額
- 四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
- 五 社債ノ利率
- 六 社債償還ノ方法及期限
- 七 利息支拂ノ方法及期限

八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示

九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ全額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示

十 第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分

十一 委託及受託ノ表示

十二 證書作成ノ年月日

各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ其ノ謄本ヲ各支店ニ備置クヘシ

第二十一條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項

二 物上擔保附社債

三、信託證書ノ表示

四、擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示

五、前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額

六、會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額

七、最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

八、信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所

前項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合

ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ要セス

第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

受託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得

前項ニ依ル社債總額ノ引受ハ之ヲ商行為トス

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第二十五條第二項第二十七條第一項第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號第五號乃至第七號第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 第二十三條ニ依ル委任又ハ第二十五條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實

四 第二十九條第一項ニ依ル引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

第四章 債券

第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一項第一號乃至第三號第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項

二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項

三 債券ノ番號

四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依

リテ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレバ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第二百六條ニ依ル記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條ニ依ル請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一項第一號第七號第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二 第三十四條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ

受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ

商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ

第四十一條第二項第四十二條第四十三條及商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

第四十一條第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

第六章 社債權者集會

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間内ニ集會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得

第五十條 第十五條第二項第八十九條第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

前項ノ招集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ
第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ亦自ラ之ヲ招集スルコトヲ得

第五十一條 商法第五百十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ招集ニ之ヲ準用ス

第五十二條 社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六十四條第六十七條第七十五條第八十五條第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シタル者ノ半数以上ニシテ社債總額ノ半数以上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス

集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得

各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ十一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ヲ招集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ招集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第五百五十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ招集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 社債權者集會招集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社受託會社又ハ各社債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且招集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第五十八條 社債權者集會ニ於テ議決スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

第五十九條 社債權者集會ヲ招集シタル者ハ決議録ヲ作成スヘシ

第六十條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議録ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ

受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議録ヲ閱覽セシムヘシ

第六十一條 受託會社以外ノ者カ決議録ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第六十二條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除クノ外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

第六十三條 社債權者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム

第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ら執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得

第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其公告ヲ爲シ委託會社及第廿九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受タル者ニ之ヲ通知スヘシ

第七章 信託契約ノ効力

第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ

第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス

受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ義務ヲ負フ

第七十一條 社債權者ハ其債權額ニ應シ平等ノ擔保ノ利益ヲ享受ス

第七十二條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成立前ニ於テモ其ノ効力ヲ生ス

第七十三條 民法第三百四十八條第三百七十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セス

第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得

第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得

第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ効力ヲ有ス

第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社遲滞ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者

及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ契約證書ニハ第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遅延シ二箇月ヲ經過シタルトギハ受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會

社ニ催告スルヲ得

委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ
第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滯ナク之ヲ公告
スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各
別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合
ニ之ヲ準用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セラレス又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セスシテ解散
シタルトキハ受託會社ハ遲滯ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル動産質ニ之ヲ適用セス

第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付
強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依ル競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ

必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ因リ
テ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破
産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキ
ハ遲滯ナク公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受
ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ遲滯ナク債權額ニ應シテ各社債
權者ニ交付スヘシ

受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用
ス

社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサ
ルトキハ受託會社ハ其ノ債權者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ第

一項及第二項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條 受託會社カ總社債權者ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス

受託會社ハ前項ノ債權ニ付債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

第八章 信託事務ノ承繼及終了

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ受託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得

信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得

第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ解任スルコトヲ得

第一百條 前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消シテ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ

第一百一條 第九十七條ニ依ル信託事務ノ承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ効力ヲ生ス

前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滯ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ
前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ効力ヲ生

ス

第一百二條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社、前受託會社及新受託會社、第一百條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社及新受託會社遲滯ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第一百三條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第一百條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締約シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ

社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ遡リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス

第一百五條 前受託會社ノ取締役之ヲ代表スル社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滯ナク其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ

前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添附スヘシ

第百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準用ス

第百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

第九章 罰則

第百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
- 四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ

五 第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

六 本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ

八 第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ

九 第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ

十 第九十五條第一項ニ依ル検査ヲ妨ケタルトキ

十一 第一百五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ

十二 社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ

十三 社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

第百十條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
 三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ
 四 本法ニ依リ備ヘ置クヘキ書類ヲ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第百十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

第百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第七十九條第一項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

既設ノ會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ

第百十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第百十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ命シ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第百十六條 本法ニ依ル社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手續法第九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書ヲ添附スヘシ

第百十七條 本法ニ依ル社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滞ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ

前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

第百十八條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ニ付テハ受託會社ヲ登記權利者トス
 第百十九條 信託契約ニ依ル擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ不動産登記法第六十條又ハ第百十七條ニ依ル債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル

第百二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

擔保附社債信託法施行期日ノ件(明治三十八年六月勅令第百八十五號)

擔保附社債信託法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二節 擔保附社債信託法施行細則

擔保附社債信託法施行細則(明治三十八年五月
大藏省令第三五號)

第一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスル會社ハ免許申請書ニ定款ヲ添附シテ差
出スヘシ

前項ノ書類ノ外合名會社又ハ合資會社ニ在リテハ出資ノ拂込額ヲ記載シタル書面株式會社
ニ在リテハ非訟事件手續法第百八十七條第二項第二號乃至第六號及第九號ニ記載シタル書
類株式合資會社ニ在リテハ之ニ準スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 既設會社カ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ左ノ書
類ヲ添附シテ差出スヘシ

一 定款又ハ會社契約書ノ謄本

二 目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本又ハ社員總會ノ決議ヲ記載シタル書面

三 最終ノ貸借對照表

第三條 信託會社カ信託契約ヲ締結シタルトキハ遲滯ナク左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ

一 信託證書謄本

二 社債ノ總額ヲ引受ケ別ニ其ノ引受ニ關スル契約書アルトキハ其ノ契約書謄本

三 社債募集ノ事由ヲ記載シタル書面

前項第一號ノ信託證書カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ認可ノ證印アル信託證書
ノ謄本ナルコトヲ要ス

前項ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第四條 信託會社ハ信託契約ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク届出ツヘシ

前項ノ變更カ主務官廳ノ認可ヲ要スルモノナルトキハ其ノ認可書謄本ヲ添附スヘシ

第五條 信託會社カ委託會社ノ委任ニ因リ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ其ノ社債ノ募集カ確
定シタルトキハ遲滯ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

一 應募口數券面總額及其ノ申込價格ノ總額

二 募入ノ口數券面總額及總價格(即チ會社ノ實收スヘキ金額)

第六條 外國會社ト信託契約ヲ締結セムトスル會社ハ許可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ差出
スヘシ

一 信託證書案

二 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本

三 擔保附社債信託法第二十二條第一項第五號乃至第七號ノ事項及社債募集ノ事由ヲ記載

シタル書面

四 信託ヲ引受ケムトスル外國會社ノ定款寫又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面
 五 前號ノ外國會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額及其ノ拂込金額ヲ記載シタル書面

第七條 擔保附社債信託法第十七條第四項ノ届書ニハ代表者タル資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八條 第六條ノ信託契約ヲ締結シタル外國會社ニ付テハ第三條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス
 第九條 信託會社ハ社債權者集會ノ招集アリタルトキハ遲滯ナク集會ノ目的場所期日及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

信託會社カ社債權者集會ノ決議錄ヲ作成シ又ハ決議錄謄本ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其決議錄謄本ニ集會ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ其ノ決議ノ無効ノ宣告又ハ其ノ宣告ノ取消アリタルトキ亦同シ

社債權者集會ノ決議ヲ執行シタルトキハ執行者ハ遲滯ナク其ノ願末ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第十條 擔保附社債信託法第四十九條第二項ニ依ル許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 集會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面
- 二 招集ノ請求ヲ受ケタル者カ請求アリタル後二週間内ニ招集ノ手續ヲ爲ササリシ事實ヲ記載シタル書面

前項ノ申請者カ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ前項ノ書類ノ外其ノ社債權者カ各自有スル債券額及社債原簿ニ現存セル社債總額ヲ記載シ且其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添ヘ其ノ許可申請書ニハ各自署名スヘシ但シ無記名債券ハ之ヲ信託會社ニ提供スルカ又ハ大藏大臣ノ指定スル銀行ニ預ケ入レ其ノ預リ證書ヲ提供スヘシ

第十一條 擔保附社債信託法第八十九條ニ依ル申請書ニハ社債權者集會ノ決議錄ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 擔保附社債信託法第八十九條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ爲スヘキ行爲ヲ怠リタル事實ヲ證スル書面
- 二 同條第二項ノ場合ニ於テハ社債權者ト受託會社トノ利益相反スルノ事實及其ノ事實ニ依リ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判所ノ行爲ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面

第十二條 擔保附社債信託法第九十四條ニ依ル申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議錄謄本ヲ添附スヘシ

一 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格ノ減少シタル事實カ受託會社ノ故意若ハ過失ニ出テタル事實ヲ證スル書面

二 擔保ノ消滅又ハ其ノ價格減少ニ關スル計算書

第十三條 信託會社カ擔保附社債信託法第八十八條第三項及第九十四條第一項ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク供託金受領書謄本ヲ添ヘ届出ツヘシ

第十四條 信託會社ハ擔保附社債信託法第九十五條ニ依ル検査ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ年月日及検査ノ狀況ヲ報告スヘシ

第十五條 擔保附社債信託法第九十七條第二項ニ依リ外國會社ト信託事務ノ承繼契約ヲ締結セムトスル場合ニ於テハ委託會社ハ許可申請書ニ左ノ書類及第六條第一項第四號及第五號ノ書類ヲ添附スヘシ

一 信託契約ノ定ムル所ニ依リ辭任シタルコト又ハ委託會社及社債權者集會カ辭任ニ同意シタルコトヲ表示シタル書面

二 信託事務ニ關スル計算書

三 承繼契約書案

第十六條 擔保附社債信託法第九十八條ニ依ル許可申請書ニハ辭任ヲ要スル事由ヲ記載シタ

ル書面及信託事務ニ關スル計算書ヲ添附スヘシ

第十七條 擔保附社債信託法第九十九條ニ依ル申請書ニハ辭任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ但シ申請者カ社債權者集會ナルトキハ尙ホ其ノ決議錄謄本ヲ添附スヘシ

第十八條 擔保附社債信託法第一百一條第二項ニ依ル届書ニハ同條第一項ノ契約書謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ書類ニハ第十五條第一號及第二號ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第十五條ノ手續ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第十九條 擔保附社債信託法第一百五條第二項ニ依ル届書ニハ引繼ノ領末ヲ記載シ同條第三項ノ目錄ト共ニ差出スヘシ

第二十條 信託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ遲滯ナク總計算書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十一條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ手續ヲ了シタル後遲滯ナク各會社共同シテ左ノ書類ヲ添附シテ届出ツヘシ但シ合併ニ依リ信託ノ業務ヲ廢止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 合併ニ關スル契約書

- 二 合併ニ依リ設立シ又ハ合併後存続スル會社ノ定款
 - 三 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル會社各自ノ貸借對照表
 - 四 合併ニ關スル株主總會決議錄謄本又ハ社員ノ決議ヲ記載シタル書面
 - 五 商法第七十九條第一項ノ規定ニ依リタルコト又ハ同條第二項ノ規定ヲ履行シタルコトヲ證スル書面
- 合併セムトスル會社カ銀行タルトキハ銀行條例施行細則第七條ニ依ル認可申請書ニ第十五條第一號乃至第三號及前項第五號ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス
- 合併ニ因リ設立シ又ハ合併後存続スル會社カ新ニ信託事業ヲ營マムトスルトキハ免許申請書ニ第一項ノ書類ヲ添附スヘシ
- 第二十二條 擔保附社債信託法第十四條及第十五條ニ依ル請求書ニハ請求者カ利害關係ヲ有スル事實及清算人ノ選任又ハ解任ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ差出スヘシ
- 前項ノ請求者カ社債總額十分ノ一ニ當ル社債權者ナルトキハ第十條第二項ノ規定ヲ適用ス
- 第二十三條 信託會社ノ清算人ハ就職後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シテ届出ツヘシ

清算人ハ毎月清算ノ狀況ヲ報告スヘシ但シ重要ナル事項ニ付キテハ其ノ都度遲滞ナク届出ツヘシ

清算カ結了シタルトキハ遲滞ナク決算會ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十四條 信託會社カ登記又ハ登録ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ事項及年月日ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

第二十五條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ハ遲滞ナク其ノ事由又ハ狀況ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ届出ツヘシ

- 一 信託事業ニ關スル訴訟事件ノ當事者トナリタルトキ及其ノ判決アリタルトキ
 - 二 非訟事件ニ付裁判所ニ請求又ハ抗告ヲ爲シタルトキ及其ノ決定アリタルトキ
 - 三 検査役ノ選任アリタルトキ
 - 四 仕拂ヲ停止シ又ハ解散ノ事由發生シタルトキ
 - 五 商法第七十四條第一項ニ依ル株主總會ノ召集ヲ爲シタルトキ
- 第二十六條 明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則第四條乃至第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ之ヲ信託會社ニ準用ス但シ營業報告中社債ニ關スル事項ハ附屬様式ニ準シテ調製スヘシ

信託會社ハ毎月實際報告表ヲ調製シ翌月十日マテニ差出スヘシ
附則

第二十七條 本令ハ擔保附社債信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(附屬様式ハ之ヲ畧ス)

第四章 取引所

第一節 取引所法及施行規則

第一款 取引所法

取引所法(明治二十六年三月法律第五號公布
正三二年法律第五八號ヲ以テ改正)

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若クハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限り設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ラニ繼續ヲ爲スコトヲ得

第四條 株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二章 取引所ノ組織

第五條 取引所ハ土地商業ノ情況及ヒ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及ヒ會員ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限り賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條 取引所ハ法人トシテ財産ヲ所有シ及ヒ之ヲ處分スルコトヲ得

取引所ノ責任ハ財産ニ限ルモノトス

第八條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及ヒ指圖式ノ倉荷證書ヲ發行スルコトヲ得

取引所ハ其倉荷證書ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受ルコトヲ得ス

第九條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章 取引所ノ會員株主及仲買人

第十條 一箇年以上取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ハ定款ノ規程ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

二箇年以上其ノ取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事シタル商人ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ハ政府ノ免記ヲ受ケ其ノ取引所ノ仲買人トナルコトヲ得

一種ノ商業ニ付前項ノ資格ヲ有スル者ハ土地商業ノ情況ニ依リ二種以上ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ノ仲買人タル免許ヲ受クルコトヲ得

第十一條 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員又ハ仲買人トナルコトヲ得ス

婦女、未成年者、公權剝奪及ヒ停止中ノ者復權セサル破産者及ヒ家資分散者並ニ取引所ニ於テ除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ取引所ノ會員タルコトヲ得ス

重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用ヲ害スル罪、財産ニ對スル罪商業及ヒ農工業ヲ妨害スル罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレ其ノ滿期若クハ赦免後二箇年ヲ經サル者及ヒ前項ニ該當スル者ハ取引所ノ仲買人タルコトヲ得ス

第十二條 取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條 取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキハ免許料ヲ納ムヘシ

免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 取引所ノ會員及ヒ仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲メ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且ツ政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第四章 取引所ノ役員

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ役員左ノ如シ

理事長 一人

理事 二人以上

監査役 若干人

理事長及ヒ理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ

第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十七條 取引所ノ役員及雇人ハ其取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス但シ監査役ハ此限ニ在ラス

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ハ直取引延取引及ヒ定期取引ノ三種トス

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及ヒ身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スヘシ

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及ヒ之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條 取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ハ公定相場トス

第六章 取引所ノ監督

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若クハ公衆ノ安寧ニ妨害アルト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取引所ノ解散
- 二 取引所ノ停止
- 三 取引所一部ノ停止若クハ禁止
- 四 役員ノ解職
- 五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若クハ除名

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及ヒ會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ取引所ノ役員會員及ヒ仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若クハ取消スコトヲ得

第三十條 取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章 罰則

第三十一條 第十二條第一項及ヒ第十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十五條ニ違背シタル者及公定相場ヲ偽リタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 取引所ノ稅則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式手数料及ヒ積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六

年布告第四號及ヒ同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ於テ出願ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ此限ニ在ラス

第二款 取引所法施行規則

取引所法施行規則(明治三十二年七月農商務省令第十八號) (同三十二年四月同省令第三號第三次改正)

- 第一條 會員組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添へ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 發起人各自出資額
 - 二 資本金使用ノ概算
 - 三 設立ヲ要スル事由
 - 四 賣買取引スヘキ物件ノ其地區内ニ於ケル集散ノ沿革及現況
 - 五 其地區内ニ於テ會員又ハ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ

第二條 株式會社組織ノ取引所ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル發起認可申請書ニ定款及發起人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

一 前條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

二 發起人各自ノ引受クヘキ株式ノ數

三 其地區内ニ於テ仲買人タルコトヲ得ヘキ商人ノ概數但各賣買品毎ニ區別スヘシ

第三條 農商務大臣取引所ノ地區ヲ定メタルトキハ臨時之ヲ告示スヘシ

第四條 發起人ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類毎ニ一箇年以上其種類ノ商業ニ従事シタル商人三十人以上タルヘシ

第五條 取引所ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 取引所ノ地區

二 賣買取引スヘキ物件

三 役員ノ選舉及其職務ニ關スル事項

四 會議ニ關スル事項

五 手数料及仲買人ノ口錢ニ關スル事項

六 仲買人ノ業務組合及規約ニ關スル事項

七 仲買人ノ身元保證金及使用人ニ關スル事項

八 仲買人ノ入退ニ關スル事項

九 市場ノ開閉及休業ニ關スル事項

十 賣買、受渡及證據金ニ關スル事項

十一 倉庫ニ關スル事項

十二 公定相場ニ關スル事項

十三 取引所ノ帳簿記錄及仲買人ノ帳簿ニ關スル事項

十四 取引所ノ出納及決算ニ關スル事項

十五 金錢及有價證券ノ保管ニ關スル事項

十六 仲裁ニ關スル事項

十七 違約處分ニ關スル事項

十八 定款ノ變更及解散ニ關スル事項

第六條 會員組織ノ取引所ノ定款ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 取引所ノ名稱及所在地

- 二 會員ノ出資及身元保證金ニ關スル事項
- 三 會員ノ入退ニ關スル事項

第七條 會員組織ノ取引所ノ發起人發起ノ認可ヲ得タルトキハ少ナクトモ十四日間左ノ事項ヲ公告シテ會員ヲ募集スヘシ

- 一 發起認可ノ年月日
- 二 取引所ノ組織、名稱及所在地
- 三 取引所ノ地區
- 四 賣買取引スヘキ物件
- 五 資本金及發起人各自ノ出資額
- 六 各申込人ニ定款ヲ展閱セシムヘキ事
- 七 發起人ノ氏名

第七條ノ二 會員組織ノ取引所ハ賣買取引スヘキ物件ノ種類毎ニ五十人以上ノ會員アルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條 發起人會員ノ募集ヲ終ハリタルトキハ創立總會ヲ開クヘシ此總會ニ於テハ總會員ノ半數以上ノ承諾ヲ以テ定款ヲ確定シ且役員ヲ選舉ス

役員ハ設立免許申請書ニ定款、會員申込簿及申込人ノ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第九條 株式會社組織ノ取引所ノ發起人株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ總役員ハ商法第二百一十四條ニ定メタル調査終了ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 定款
- 二 發起人各自ノ引受ケタル株式ノ員數ヲ記載シタル書面
- 三 検査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其謄本
- 四 役員ノ選舉ニ關スル書類

第十條 發起ノ認可ヲ得タル後一年以内ニ設立免許ノ申請ヲ爲ササルトキハ認可ハ其效力ヲ失フ

第十一條 發起人株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ總役員ハ創立總會終結ノ後設立免許申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 定款
- 二 各株主ノ株式申込證ノ謄本及株主名簿

三 商法第三百二十四條ノ規定ニ從ヒテ役員又ハ検査役カ爲シタル調査報告書及其附屬書類
四 創立總會ノ決議録

第十二條 役員認可申請書ニハ其役員ノ履歷書ヲ添ヘ設立免許申請書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第十三條 發起認可申請書及設立免許申請書ニハ地方長官其意見書ヲ添附スヘシ

第十四條 開業ノ日ヲ定メタルトキハ役員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第十五條 取引所設立ノ免許ヲ得タル後一年以内ニ開業セサルトキハ免許ハ其效力ヲ失フ

第十五條ノ二 取引所ニシテ繼續ノ出願ヲ爲サムトスルモノハ願書ニ定款ヲ添付シ免許年限満了前一年以内ニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ免許年限満了ノ日ヨリ三箇月前ニ其手續ヲ爲ササルモノハ出願ヲ受理セス

第十六條 仲買人ノ免許ヲ得ント欲スル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添ヘ取引所ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

取引所ハ前項ノ願書ニ意見書ヲ添附スヘシ

第十七條 農商務大臣仲買人ノ免許ヲ與ヘタルトキハ免許狀ヲ取引所ニ送付スヘシ

取引所ハ前項ノ免許狀ノ送付ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ本人ニ通知シ免許料金額ニ相當スル収入印紙ヲ貼用シタル請書及身元保證金ヲ差出サシメタル後之ヲ交付スヘシ

前項ノ請書ハ取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十八條 仲買人前條第二項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ請書又ハ身元保證金ヲ差出ササルトキハ免許ハ其效力ヲ失フ

第十九條 仲買人廢業シタルトキハ届書ニ免許狀ヲ添附シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十條 仲買人免許狀ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ具シテ免許狀ノ再下付ヲ申請スヘシ

仲買人氏名ヲ變更シタルトキハ免許狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第二十條ノ二 取引所ハ會員及仲買人ノ帳簿ノ種類、記載事項及様式ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十條ノ三 取引所ニ於テ會員及仲買人身元保證金ノ代用有價證券ノ種類及價格ヲ指定シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二十條ノ四 取引所ハ其所有及諸預リノ金錢及有價證券ノ保管方法ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ五 取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムル場合ニ於テハ一種又ハ一種以上ノ標準物ヲ定メ格付表ヲ調製シ認可ヲ申請スヘシ

取引所ハ標準物ニ相當スル見本ヲ備ヘ置クヘシ

第二十條ノ六 取引所ニ於テ轉賣買戻相殺ノ方法ヲ用非ントスルトキハ賣買者ノ届出ニ依リ帳簿ニ記載シ之カ相殺ヲ爲シテ其契約ヲ結了スルノ手續ヲ定メ之ヲ定款中ニ規定スヘシ

第二十條ノ七 取引所ハ其市場ニ於テ賣買取引スル物件ノ公定相場ヲ公示スヘシ
公定相場ハ市場ニ於ケル取引價格ニシテ適當ト認めタルモノニ依リ取引所ノ理事長理事之ヲ定ム其決定ノ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十條ノ八 有價證券ノ延取引ニ限リ賣買者間ノ合意ニ依リ債權債務ノ移轉ヲ爲シタル場合ニ於テ取引所ハ其賣買差金ノ立換又ハ預リヲ爲スコトヲ得

第二十一條 取引所又ハ其役員訴訟ノ當事者トナリタルトキハ其訴訟ノ要旨及其年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ訴訟結了シタルトキ亦同シ

第二十二條 株式會社組織ノ取引所商法ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ登記シタル事項及其登記ノ年月日ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ

- 第二十三條 取引所ハ左ノ報告書類ヲ調製シ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 一 毎日公定相場表
 - 二 毎月賣買高表
 - 三 毎月商品ノ集散及商況ニ關スル報告書

以上翌月十五日限り發送

四 收支豫算表

以上議定後十五日限り發送

五 每半期財産目錄

六 每半期貸借對照表

七 每半期損益計算表

八 每半期事業報告書

九 每半期末日現在會員、株主及仲買人並其使用人ノ氏名表

以上決算期後二十日限り發送

第二十四條 取引所ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ別段ノ規定アルモノノ外地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官前項ノ書類ニ付キ意見アルトキハ之ニ其意見書ヲ添附スヘシ

第二十五條 仲買人ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ取引所ヲ經由スヘシ

附則

第二十六條 本令施行前ニ發起ノ認可アリタルモノニ付テハ第十條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨ

リ之ヲ起算ス

第二節 取引所税法

取引所税法(明治二十六年三月法律第六號)

第一條 取引所ハ定期賣買ニ付左ノ割合ニ從ヒ税金ヲ納ムヘシ

一 商品、有價證券 賣買各約定代金高 萬分ノ六箇

一 國債及地方債證券 同 萬分ノ三箇

第二條 定期内ニ於ケル轉賣人ノ賣高及買戻人ノ買高ニ係ル税金ハ之ヲ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之ヲ免除セス

第四條 取引所ハ每一箇月分賣買取引ヲ爲シタル各約定代金高ヲ翌月五日迄ニ管轄廳ニ届出ヘシ

取引所税額ハ前項ノ届出ニヨリ地方長官之ヲ定ム

第五條 取引所税金ハ每一箇月分ヲ翌二十日マテニ納ムヘシ

第六條 當該官吏ハ地方長官ノ命令ニ依リ隨時取引所並ニ會員仲買人ニ就キ其賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトアルヘシ

第七條 第四條ノ届出ヲ詐リ脱税ヲ圖リ又ハ脱税シタルトキハ取引所理事長ヲ百圓以上千圓

以下ノ罰金ニ處シ仍取引所ヨリ其ノ脱税ニ係ル金額ヲ徴收スヘシ

第八條 第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ理事長ヲ一圓以上一圓九十九錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

附則

第十條 本法ハ取引所法實施ノ日ヨリ施行ス

第二節 雜則

第一 米、有價證券取引市場設立ニ關スル件

農商務省令第一號(明治二十九年三月)

米又ハ有價證券ヲ取引スル市場ハ爾今地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クルニアラサレハ設立スルコトヲ得ス犯ス者ハ十圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第二 取引所設立發起認可申請ニ關スル件

農商務省訓令第七號(明治二十七年二月)

取引所設立發起ノ認可ヲ申請スルモノアルトキハ左ノ各項ニ對スル意見ヲ添申シテ其申請書ヲ進達スヘシ

- 一 該地ニ於ケル其物件ノ集散ノ數量及ヒ集散ノ狀況果シテ取引所ヲ設立シ之カ價格ヲ公定スルノ必要アルヤ否
- 二 該地ニ接近セル取引所ノ作用ニ依リ其物件ノ需要供給ノ關係ヲ圓滑ナラシムルニ足ラサルヤ否
- 三 該地ニ取引所ヲ設立スルモ將來能ク之ヲ保續シ得ヘキヤ否

第三 取引所資本金、營業保證金、株式手数料、

積立金及賣買取引ノ方法ニ關スル規程

并仲買人免許料金額ノ件

勅令第七十四號(明治二十六年七月、同三十六年八月勅令第一二七號迄二次改正)

第一條 株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ十萬圓以上トス
農商務大臣ハ賣買取引ノ狀況ニ因リ必要ト認ムルトキハ資本金額ヲ増加セシムルコトヲ

得

株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ半額以上ニシテ少ナシトモ十萬圓ノ拂込ヲ終リタル後ニ非サレハ業務ヲ行フコトヲ得ス

第二條 會員組織ノ取引所ノ創設及維持ノ資本金ハ其會員ノ餘金ヲ以テ之ニ充ツヘシ解散ノ場合ニ於テ存留スル資本及其他ノ財産ハ一切ノ義務ヲ解除シタル後ニ於テ現時ノ各會員ニ平分スヘシ

第三條 取引所ニシテ倉庫ヲ設置スルトキハ其倉庫ニ關スル資本金ハ第一條及第二條ノ資本金以外ニ之ヲ増加スヘシ

第四條 株式會社組織ノ取引所ノ營業保證金額ハ其資本金額ノ三分ノ一トス但倉庫ノ爲メ増加シタル資本金ハ之ヲ算入セス
營業保證金ハ營業開始前大藏省預金局預金ノ證書若クハ國債地方債證券ヲ以テ其全額ヲ地方廳ニ納ムヘシ但國債地方債證券ヲ納入スル場合ニ於テハ其價格ハ農商務大臣ノ指定スル所ニ依ルヘシ
資本金増額ノ場合ニ於テ増納スヘキ營業保證金ハ農商務大臣ノ指定スル日限マテニ其手續ヲ爲スヘシ

第五條 取引所ノ資本金ノ各株式ハ其株金ノ半額以上拂込前ニ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テ利益ヲ會員ニ分配スルノ目的ヲ以テ手数料ヲ徵收スルコトヲ得ス

第七條 取引所ニ於テ賣買雙方ヨリ徵收スル手数料ハ取引所ノ組織、賣買ノ物件、賣買ノ方法及賣買ノ狀況ニ應シ賣買約定代金ノ千分ノ八ヲ超過スルコトヲ得ス

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ定限以内ニ於テ取引所ノ手数料ノ率ヲ改定セシムルコトヲ得

第七條ノ二 株式會社組織ノ取引所ニ於テ株主ニ配當スヘキ利益カ拂込金額ニ對シ年一割ヲ超ユル場合ニ於テハ一割ヲ控除シタル殘額カ一割未滿ナルトキハ其ノ十分ノ三、二割未滿ナルトキハ其ノ十分ノ四、二割以上ナルトキハ其ノ十分ノ五ヲ賠償責任ノ準備トシテ積立ツヘシ

前項ノ積立金資本金額ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第八條 會員組織ノ取引所ハ毎年其總收入金ノ二十分ノ一ニ相當スル金額ヲ準備シ積立金トシテ積置クヘシ但準備ノ積立金額資本金額ノ四分ノ一以上ニ達シタルトキハ農商務大臣ノ

認可ヲ受ケ其積立ヲ停止シ若クハ其積立金額ノ率ヲ減少スルコトヲ得

第九條 取引所ノ準備ノ積立金ヲ支出セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條ノ二 取引所ハ會員及仲買人ノ身元保證金ヲ供託スヘシ

第十條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ直取引、延取引及定期取引ノ市場ヲ開閉スヘシ但定款ヲ以テ定例及臨時休業ヲ爲スノ場合ヲ規定スルコトヲ得

第十一條 取引所ノ賣買取引ノ契約ハ現物、見本又ハ銘柄ニヨリ取結フヘシ

第十二條 取引所ノ賣買取引ノ契約履行ノ期限ハ當日ヨリ起算シ直取引ハ五日以内延取引ハ百五十日以内賣買雙方約定ノ日限ニ依リ定期取引ハ三箇月以内取引所指定ノ限月ニ依ルヘシ

第十三條 取引所ノ定期取引ニ限り左ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

一 單位ヲ定メテ賣買スルノ方法

二 競賣買ヲ爲スノ方法

三 米ニ限り標準物ヲ以テ賣買契約ヲ爲シ取引所ニ於テ豫メ指定スル同種商品ノ格付ニ從ヒ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スノ方法

四 株式會社組織ノ取引所ニ在リテハ契約期限内ニ於テ爲シタル轉賣買戻ヲ取引所ノ帳簿

ニ記載スル所ニヨリ相殺スルノ方法

五 賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法

取引所ニ於テ米ノ格付ヲ定ムルトキ又ハ第一項第四號ノ方法ヲ用ウルトキハ農商務大臣認可ヲ受クヘシ

取引所ハ特ニ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ直取引及延取引ニ於テモ亦賣買雙方ヨリ證據金ヲ差出サシムルノ方法ヲ用ウルコトヲ得

第十四條 取引所ニ於テ賣買取引ノ契約ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ノ氏名賣買品ノ數量及其價格ヲ取引所ノ帳簿ニ記載スヘシ

第十五條 賣買取引ノ物件代金ノ受渡ハ取引所ノ役員立會ノ上執行スヘシ

第十六條 取引所ノ仲買人免許料ノ金額ハ百圓トス

第四 國債證券ノ取引所稅廢止ニ關スル法律

法律第十二號(明治三十九年三月)

國債證券ノ定期賣買ニ付テハ取引所稅及非常特別稅ヲ課セス

第二編 商業會議所

第一章 商業會議所法

商業會議所法(明治三十五年三月)

法律第三十一號

第一條 商業會議所ハ法人トス

第二條 商業會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲スコトヲ得

第三條 商業會議所ヲ設立セムトスルトキハ議員ノ被選舉權ヲ有スヘキ者三十人以上發起人ト爲リ發起ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

第四條 發起人前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ定款ヲ作り議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ設立ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ

第五條 商業會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日ニ於テ成立ス

商業會議所成立ノ後役員ノ認可アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ

第六條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

銀行會社法令大全 第三編 第一章 商業會議所法

- 一 名稱、地區及所在地
- 二 議員ノ定數及其ノ選舉ニ關スル規定
- 三 役員ノ權限、選任及解任ニ關スル規定
- 四 會議ニ關スル規定
- 五 仲裁ニ關スル規定
- 六 庶務ニ關スル規定
- 七 會計ニ關スル規定
- 八 營造物ヲ設立シ又ハ管理スルトキハ其ノ管理ニ關スル規定

第七條 商業會議所ノ事務權限左ノ如シ

- 一 商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル方案ヲ調査スル事
- 二 商工業ニ關スル法規ノ制定、改廢、施行ニ關シ意見ヲ行政廳ニ開申シ及商工業ノ利害ニスル意見ヲ表示スル事
- 三 商工業ニ關スル事項ニ關シ行政廳ノ諮問ニ應スル事
- 四 商工業ノ狀況及統計ヲ調査發表スル事
- 五 商工業者ノ委囑ニ因リ商工業ニ關スル事項ヲ調査シ又ハ商品ノ產地價格等ヲ證明スル事

事

- 六 官廳ノ命ニ因リ商工業ニ關スル鑑定人又ハ參考人ヲ推薦スル事
 - 七 關係人ノ請求ニ因リ商工業ニ關スル紛議ヲ仲裁スル事
 - 八 農商務大臣ノ認可ヲ受ケ商工業ニ關スル營造物ヲ設立シ又ハ管理シ其ノ他商工業ノ發達ヲ圖ルニ必要ナル施設ヲ爲ス事
- 第八條 農商務大臣又ハ地方長官ハ商工業ニ關スル事項ノ調査ヲ商業會議所ニ命スルコトヲ得

第九條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ商業會議所ノ地區内ニ主タル營業所又ハ事務所ヲ有シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ議員ノ選舉權ヲ有ス但シ合名會社ニ在リテハ社員ノ半數以上、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ半數以上、株式會社ニ在リテハ取締役ノ半數以上帝國臣民タルコトヲ要ス

- 一 自己ノ名ヲ以テ商法第二百六十三條第二百六十四條第一號第三號乃至第六號及第八號乃至第十二號ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ業トシ營業稅ヲ納ムル者
- 二 自己ノ名ヲ以テ製造及加工ニ關スル行爲ヲ爲スコトヲ業トシ營業稅ヲ納ムル者
- 三 取引所稅ヲ納ムル取引所

四 鑛業稅ヲ納ムル鑛業權者

二百六十四

前項納稅ノ額ニ關スル制限ハ地方ノ狀況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ商業會議所ノ地區内ニ營業所又ハ事務所ヲ有シ第一項各號ノ一ニ該當スルモノノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事長、理事又ハ登記シタル支配人ニシテ所得稅ヲ納ムル帝國臣民ハ其ノ主トシテ職務ニ從事スル營業所又ハ事務所ノ所在地ニ於テ議員ノ選舉權ヲ有ス

前項納稅ノ額及法人ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額ニ關スル制限ハ地方ノ狀況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ選舉權ヲ有セス

一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二 剝奪公權者及停止公權者

三 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第十一條 一人ニシテ同一商業會議所ノ議員ノ選舉ニ關シニ以上ノ選舉權ヲ有スルコトヲ得ス

第十二條 法人及年齢三十歳以上ノ男子ニシテ二箇年以來議員ノ選舉權ニ關スル要件ヲ具備スル者ハ議員ノ被選舉權ヲ有ス但シ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員帝國臣民タルコトヲ要ス

第十三條 第十條各號ノ一ニ該當スル者並禁治產者及準禁治產者ハ被選舉權ヲ有セス

第十四條 議員ノ定數ハ五十人以下トス

第十五條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

地方長官ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ命スルコトヲ得

特別議員ハ決議ニ加ハルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

特別議員ハ年齢三十歳以上ノ帝國臣民タル男子ニシテ商工業ニ關スル學術技藝又ハ經驗アル者タルコトヲ要ス

第十六條 議員ノ選舉ニ關シテハ複選舉、階級選舉其ノ他ノ方法ニ依ルコトヲ得

議員選舉人ノ選舉ニ關シテハ議員ノ選舉ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條 議員ノ選舉事務ハ地方長官ノ命シタル選舉委員之ヲ行フ其ノ費用ハ商業會議所ノ

負擔トス

地方長官ハ選舉事務ヲ監督ス

第十八條 議員ノ選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フヘシ但シ法人女子及無能力者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條 議員及議員選舉人選舉ノ方法、手續及取締ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 議員當選者ハ地方長官、議員ハ會頭ニ於テ正當ノ事由アリト認メタル場合ヲ除ク

ノ外商業會議所ノ決議ヲ經ルニ非サレハ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十一條 議員タル法人ハ其ノ代表者ヲ定ムヘシ

代表者ハ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事長又ハ理事ニシテ年齢三十歳以上ノ男子タルコトヲ要ス

第十二條ニ該當スル者ハ代表者タルコトヲ得ス

第二十二條 一人ニシテ同一商業會議所ニ於テ二以上ノ法人ノ代表者ト爲リ又ハ議員ト代表者トヲ兼スルコトヲ得ス

第二十三條 議員及特別議員ハ無給トス

第二十四條 議員ノ任期ハ四箇年トシ二箇年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初

回ニ於テ多數ノ一半ヲ改選ス

初回ノ改選期及減員ノ場合ニ於テ解任者ヲ定ムル方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 補闕議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

増員議員ノ任期ハ現任者ノ任期ヲ超ユルコトヲ得ス

議員増減ノ爲必要ナル任期ノ異動ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 特別議員ハ議員ノ半數改選期毎ニ解任ス

第二十七條 議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十八條 商業會議所ニ左ノ役員ヲ置ク

會頭 一人

副會頭

會頭ハ商業會議所ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任シ會議ノ議長ト爲リ商業會議所ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ之ヲ代理ス

商業會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ會頭副會頭ノ外必要ナル役員及事務員ヲ置クコト

ヲ得

役員ハ議員中ヨリ之ヲ互選シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

役員ニシテ議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ解任ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ後任者ノ認可アル迄其ノ職務ヲ行フコトヲ得

第二十九條 商業會議所ハ商工業ノ狀況及統計ノ調査ノ爲必要ナル材料ノ提出ヲ商工業者ニ請求スルコトヲ得

第三十條 商業會議所ノ經費ハ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ於テ之ヲ負擔ス
選舉權ヲ停止セラレタル者ハ停止中ト雖經費ヲ負擔ス

第三十一條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料若ハ手数料ヲ徵收シ又ハ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

前項ノ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條 商業會議所ハ其ノ決議ヲ以テ職務ヲ怠リ其ノ他不正ノ行爲アリタル議員ニ二百圓以下ノ過怠金ヲ課シ又ハ之ヲ除名スルコトヲ得

第三十三條 經費又ハ過怠金ヲ滯納シ督促ヲ受クルモ尙之ヲ完納セルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ徵收金ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付時效ニ關シテハ國稅ノ例ニ依ル

滯納處分ハ滯納者住所ノ市參事會ハ町村長之ヲ行フ

第三十四條 商業會議所ハ滯納又ハ除名ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ決議ヲ以テ四箇年以
上選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第三十五條 左ノ議決ハ議員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 定款變更ノ決議

二 第三十二條第三十四條及第四十二條第一項ノ決議

前項ノ決議及經費ノ豫算賦課徵收方法ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十六條 商業會議所ハ經費ノ決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

商業會議所ハ毎年少クトモ一回其ノ事業成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第三十七條 商業會議所解散ノ決議ハ議員總數ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ決議ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 商業會議所ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙存續スルモノト看做

第三十九條 商業會議所解散シタルトキハ其ノ決議ヲ以テ清算人ヲ選任スヘシ清算人缺ケタルトキ亦同シ

清算人ヲ選任シタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス

第四十一條 清算人ハ商業會議所ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十二條 清算人ハ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ商業會議所ノ決議ヲ經ヘシ

商業會議所前項ノ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ清算及財産處分ノ方法ヲ定ムヘシ

第四十三條 商業會議所ハ解散ノ後ト雖其ノ債務ヲ完済スルニ必要ナル金額ヲ賦課徵收スルコトヲ得

前項ノ賦課徵收ニ關シテハ第三十條及第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第四十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ定款、經費ノ豫算及賦課徵收方法、清算及財産處分方法ノ變更ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 議員ノ選舉、商業會議所ノ決議、行爲又ハ役員、清算人ノ行爲ニシテ法令若ハ定

款ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ選舉若ハ當選ノ取消、役員、清算人議員若ハ特別議員ノ停職若ハ解任、商業會議所ノ決議、行爲若ハ役員、清算人ノ行爲ノ停止若ハ取消又ハ商業會議所ノ解散ヲ命スルコトヲ得

農商務大臣ハ前項ニ依リ解任セラレタル議員又ハ役員及不正ノ行爲ニ依リ當選ヲ取消サレタル者ニ對シ四箇年以内選舉權及被選舉權ヲ停止スルコトヲ得

第四十六條 選舉權及被選舉權ヲ停止セラレタル者ハ其ノ停止中議員、特別議員又ハ法人ノ代表者タルコトヲ得ス

第四十七條 農商務大臣ハ本法ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四十八條 本法中市町村、市參事會、町村長ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

附則

第四十九條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

商業會議所條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十二條ノ認可ヲ受クル迄其ノ效力ヲ有ス

第五十條

二百七十二

商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニシテ本法施行後繼續セムトスルモノハ本法ノ規定ニ從ヒ議員ノ定數、選舉方法其ノ他選舉ニ關スル必要ナル規定ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ明治三十六年三月三十一日迄ニ議員ノ選舉ヲ爲スヘシ
前項ノ選舉及之ニ依リ選舉セラレタル議員ニ關シテハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ヲ適用ス

第五十一條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ノ會員及特別會員ニシテ本法施行ノ際其ノ職ニ在ル者ノ任期ハ前條第一項ノ選舉終了ノ日迄トス

第五十二條 第五十條第一項ノ選舉ニ當選シタル議員ハ選舉終了ノ日ヨリ三十日以内ニ本法ノ規定ニ從ヒ定款ヲ議定シ及役員ヲ選任シ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ
商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ハ第二條ノ規定ニ拘ラス從前ノ地區ニ依ルコトヲ得

第五十三條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ノ役員ノ任期ハ前條第一項ニ依リ選任シタル役員認可ノ日迄トス

第五十四條 商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所ニシテ第五十二條第一項ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依リテ設立シタルモノト看做ス

商業會議所條例ニ依リ設立シタル商業會議所第五十條第一項又ハ第五十二條第一項ニ定メタル手續ヲ爲ササルトキハ解散シタルモノト看做ス此 場合ニ於テハ第三十八條乃至第四十五條ノ規定ヲ適用ス

第二章 商業會議所法施行規則

商業會議所法施行規則(明治三十五年六月 農商務省令一四號)

第一條 商業會所發起ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書又ハ其ノ附屬書類ニ左ノ事項ヲ記載シ發起人連署シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

- 一 商業會議所設立ノ理由
- 二 地區
- 三 議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者及被選舉權ヲ有スヘキ者ノ數
- 四 發起人カ議員ノ被選舉權ヲ有スヘキ資格
- 五 創立費豫算
- 六 市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスルトキハ其ノ特別ノ事情
前項ノ外發起人ハ農商務大臣ノ命ニ依リ商工業ノ狀況其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル書

類ヲ差出スヘシ

二百七十四

市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムスル場合ニ於テハ各市町村ニ少クトモ一人ノ發起人アルコトヲ要ス

第二條 發起人發起ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ發起ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

發起人ノ行爲ニシテ法令ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ發起ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第三條 發起人設立ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ定款及一年度經費ノ豫定額並議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上カ之ニ同意シタルコトヲ證スル書類ヲ添附シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲サムトスル場合ニ於テハ各市町村ニ付キ議員ノ選舉權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得タルコトヲ要ス

第四條 農商務大臣商業會議所設立ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ名稱、地區及所在地ヲ告示スヘシ

第五條 發起人ハ議員選舉終了後遲滯ナク商業會議所ノ會議ヲ開キ其ノ執行シタル事務ヲ報

告シ且創立費決算ノ承認ヲ求ムヘシ

前項ノ會議ニ於テハ經費ノ豫算及賦課徵收方法ヲ議決シ並役員ノ選舉ヲ行フヘシ

發起人ハ第一項ノ承認ヲ經タル創立費決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六條 役員ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク一切ノ書類、物件及事務ヲ役員ニ引継クヘシ

第七條 商業會議所ハ議員ノ當選者アル毎ニ其ノ氏名、職業、身分、住所、生年月、納稅種目及納稅額ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ法人ニ關シテハ其ノ名稱、目的、住所、設立ノ年月日、資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額、納稅種目及納稅額ヲ報告スヘシ

商業會議所法第九條第三項ニ依リ議員ノ被選舉權ヲ有スル者當選シタルトキハ前項ノ外其ノ主トシテ職務ニ從事スル法人ノ目的、納稅種目、納稅額及資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額並其ノ法人ニ於ケル地位ヲ報告スヘシ

階級、選舉區又ハ業種ニ分チテ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於テハ前二項ノ外當選者ノ屬スル階級選舉區又ハ業種ヲ報告スヘシ

特別議員ノ選定又ハ任命アリタルトキハ商業會議所ハ履歷書ヲ添附シ其ノ氏名、職業、身分住所、生年月ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八條 議員又ハ特別議員ノ退任アリタルトキハ其ノ事由及氏名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ農商務大臣ニ於テ解任ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 法人議員ニ當選シタルトキハ當選確定ノ日ヨリ二十日以内ニ代表者ノ氏名、其ノ法人ニ於ケル地位、身分、住所及生年月ヲ商業會議所ニ届出ツヘシ代表者變更ノ場合亦同シ商業會議所ハ前項届出ノ事項ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十條 第七條及第九條ニ依リ報告シタル事項ニ變更アリタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十一條 商業會議所役員ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添附シ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

役員ノ退任アリタルトキハ其ノ事由及氏名ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ農商務大臣ニ於テ解任ヲ命シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 商業會議所ハ毎月一回其ノ前月中ニ執行シタル事務ノ要領ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十三條 商業會議所ニ於テ商業會議所法第七條第八號ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ理由ヲ記載シ事業ノ計畫及費用ニ關スル詳細ノ調書ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差

出スヘシ

第十四條 商業會議所ノ經費ハ資本金額ヲ標準トシテ之ヲ賦課スルコトヲ得ス納税額ヲ標準トシテ經費ヲ賦課スル場合ニ於テハ營業稅及鑛業稅ニ在リテハ其ノ百分ノ二

十五、取引所稅ニ在リテハ其百分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

人頭割ハ等級ヲ定メテ之ヲ賦課スルコトヲ得商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ對シテハ人頭割ニ依ルノ外經費ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ同時ニ商業會議所法第九條第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 商業會議所ハ其ノ會計年度二箇月前ニ經費ノ豫算及賦課徵收方法ノ認可ヲ農商務大臣ニ申請スヘシ但シ創立ノ場合ニ於テハ決議ノ日ヨリ七日以内ニ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

經費豫算及賦課徵收方法ノ變更ノ認可ハ決議ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ申請スヘシ

第十六條 經費ノ決算ハ財産目錄ヲ添附シ會計年度經過後四箇月以内ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十七條 商業會議所解散シタルトキハ農商務大臣之ヲ告示スヘシ

第十八條 商業會議所清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ履歷書ヲ添へ遲滯ナク認可申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第十九條 地方長官前條ノ認可ヲ與へ又ハ清算人ヲ選任シタルトキハ其ノ氏名ヲ告示スヘシ
第二十條 清算人ハ就職ノ日ヨリ六箇月以内ニ清算及財産處分ノ方法ヲ定メ之ヲ商業會議所ノ決議ニ附スヘシ

前項ノ清算及財産處分ノ方法ニシテ商業會議所ノ決議ヲ經タルトキハ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ七日以内ニ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

商業會議所第一項ノ期間内ニ決議ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ清算人ハ其ノ事由ヲ具シ財産目錄及貸借對照表ヲ添附シ期間經過後七日以内ニ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十一條 清算結了シタルトキハ清算人ハ其ノ結果ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

前項ノ報告書ニハ商業會議所ニ屬スル帳簿其ノ他ノ書類及清算ニ關スル一切ノ書類ヲ添付スヘシ

第二十二條 商業會議所法第三十五條第一項又ハ第三十七條ノ決議ニ關スル認可申請書ニハ法定ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

第二十三條 商業會議所法又ハ本令ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第二十四條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章 商業會議所議員選舉規則

商條會議所議員選舉規則(明治三十五年六月農商務省令一五號)

第一條 商業會議所ニ於テ階級選舉ヲ行ハムトスルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉權者ヲ三級又ハ二級ニ分ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ別ニ之ヲ一階級ト爲スヘシ若シ其ノ數一階級ヲ爲スニ足ラサルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ前項ニ依リテ定メタル各級ニ編入スルコトヲ得

第二條 選舉權者ヲ分チテ三級ト爲ス場合ニ於テハ選舉權者中經費ノ納額最モ多キ者ヲ合セテ經費總額ノ三分一ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ一級以外ノ選舉權者中經費ノ納額多キ者ヲ合セテ經費總額ノ殘餘ノ一半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉權者ヲ三級トス

選舉權者ヲ分チテ二級ト爲ス場合ニ於テハ選舉權者中經費ノ納額最モ多キ者ヲ合セテ經費

總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉權者ヲ二級トス

前條第二項ニ依リ一階級ヲ作リタル場合ニ於テハ之ニ屬スル選舉權者ノ經費納額ヲ經費總額ヨリ控除シタル殘額ヲ以テ前二項ノ經費總額ト看做ス

各級ノ間經費ノ納額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ納額同シキ者二名以上アルトキハ選舉權ニ關スル要件ヲ具備シタル年數ノ多キ者ヲ上級ニ入ル其ノ年數ニ依リ難キトキハ年數ニ依リ難キトキハ商業會議所ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 經費納額ニ依リ階級ヲ分ツコト能ハサル場合ニ於テハ商業會議所法第九條ノ納稅額ニ依リ前條ノ規定ニ準シテ選舉權者ヲ分ツヘシ但シ取引所稅ニ關シテハ其ノ二十五分一ヲ以テ納稅額ト看做ス

一人ニシテ商業會議所法第九條第一項各號ノ稅ヲ納ムル者ハ其ノ納稅額ヲ通算スヘシ

第四條 選舉權者ヲ分チテ三級ト爲シタル場合ニ於テハ選舉權者ハ每級各別ニ議員二分一ヲ選舉シ選舉權者ヲ分チテ二級ト爲シタル場合ニ於テハ選舉權者ハ每級各別ニ議員二分一ヲ選舉ス

第一條第二項ニ依リ一階級ヲ作リタル場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ階級ヨリ選舉スヘキ議員ノ數ヲ定メ殘餘ノ議員ニ關シテ前項ノ規定ヲ準用ス

第五條 階級選舉法ニ依ル場合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ改選期ニ於テ各級ヨリ議員ノ各半數ヲ改選スヘシ

第六條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉區又ハ投票區ヲ設クルコトヲ得

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員數ハ各區ニ於ケル選舉權者ノ數ニ應シ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七條 複選舉法ニ依ル場合ニ於ケル議員選舉人ノ數ハ定款ノ定ムル所ニ依ル但シ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ選舉權者ヲ業種ニ分チ各業種ヨリ各別ニ所定ノ員數ノ議員ヲ選舉セシムルコトヲ得

第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 複選舉法ニ依ル場合ニ於テハ議員選舉人ノ選舉ニ限リ階級若ハ業種ニ分チ又ハ選舉區ヲ設ケ選舉ヲ行フコトヲ得

階級選舉法ニ依ル場合ニ於テハ二級若ハ三級ノ選舉ニ限リ選舉區ヲ設クルコトヲ得

第十條 商業會議所ハ設立ノ認可ヲ受ケタル日及毎年一回定款ニ定メタル期日ノ現在ニ依リ選舉權者名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ地方長官ニ差出スヘシ

選舉權者名簿ハ階級選舉法ニ依リ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ階級、選舉區又ハ投票區ヲ設ケテ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ選舉區又ハ投票區、業種ニ分テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テハ選舉權者ノ屬スヘキ業種ニ區別シテ調製スヘシ

選舉權者名簿ニハ選舉權者ノ氏名、職業、住所、納稅額ヲ記載スヘシ但シ法人ニ關シテハ其ノ名稱、目的、住所、納稅種目及納稅額ヲ記載スヘシ

商業會議所法第九條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ニ關シテハ前項ノ外其ノ主トシテ職務ニ從事スル法人ノ名稱、目的、納稅種目、納稅額及其ノ資本額又ハ財産ヲ目的トスル出資額並其ノ職務、主トシテ職務ニ從事スル營業所又ハ事務所ヲ記載スヘシ

第十一條 商業會議所選舉權者名簿ヲ調製シタルトキハ十四日以上ニ於テ公示ノ期間ヲ定メ豫メ其ノ期間及場所ヲ公告シ其ノ事務所又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ之ヲ縦覽ニ供スヘシ

第十二條 選舉權者選舉權者名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ縦覽期間内ニ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ商業會議所會頭ニ申立ツルコトヲ得

第十三條 會頭前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ

二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉權者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ直ニ之ヲ申立人ニ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依リ選舉權者名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告シ且之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第十四條 前條第一項ノ決定ニ不服アル申立人又ハ關係人ハ其ノ事由ヲ具シ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方長官ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ依リ選舉權者名簿ノ修正ヲ要スルトキハ商業會議所ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ旨ヲ申立人及關係人ニ通知シ且其ノ要領ヲ公告スヘシ

第十五條 選舉權者名簿ハ第十一條ノ縦覽期間滿了後二十日ヲ經テ確定ス

前項ノ名簿ハ次年ノ名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ

第十六條 商業會議所ニ於テ議員ノ選舉ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

第十七條 選舉委員ハ三名又ハ五名トシ内一名ヲ委員長トス

委員長ハ郡長又ハ市長ヲ以テ之ニ充ツ郡長又ハ市長事故アルトキハ其ノ代理者其ノ職務ヲ行フ

前項ノ場合ヲ除クノ外選舉委員事故アルトキハ地方長官ノ任命シタル豫備員中ヨリ委員長之ヲ補充ス

第十八條 撰舉區又ハ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉委員長ハ各選舉區又ハ投票區毎ニ投票管理者及其ノ代理者各一名竝立會人二名ヲ選任スヘシ

立會人事故アルトキハ投票管理者ハ臨時ニ立會人ヲ選任スヘシ

第十九條 地方長官ハ選舉ヲ行フヘキ日時及場所ヲ定メ選舉スヘキ議員ノ員數ト共ニ選舉ヲ行フヘキ日ヨリ少クトモ十五日前ニ之ヲ告示シ且之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

第二十一條 選舉權者名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選舉權者名簿ニ登錄セラレヘキ裁決書ヲ所持スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉權者名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ投票スルコトヲ得ス

第二十二條 法人女子及無能力者ハ左ノ代人ヲ以テ選舉ヲ行フヘシ但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

一 法人ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事長、理事

二 無能力者ニ非サル女子ニ在リテハ自ら選任シタル者

三 無能力者ニ在リテハ親權者、後見人、保佐人又ハ夫

代人ハ帝國臣民タル成年ノ男子ニシテ商業會議所法第十三條ニ該當セサル者ナルコトヲ要ス

代人選舉ヲ行ハムトスルトキハ其ノ代人タルコトヲ證スヘキ書面ヲ携帯スヘシ

第二十三條 選舉委員長又ハ投票管理者ハ選舉場ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 投票ヲ爲スコトヲ得ル者、選舉委員其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉ノ事務ニ従事スル者及警察官吏ノ外選舉場ニ入ルコトヲ得ス

第二十五條 選舉委員ハ其ノ決議ニ依リ投票管理者ハ立會人ノ意見ヲ聞キ投票ヲ爲スコトヲ得サル者ノ投票ヲ拒ムコトヲ得

第二十六條 選舉場ニ於テ演說、討論ヲ爲シ若ハ喧嘩ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議、勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉委員長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ

選舉場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉場閉鎖ノ後ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條

投票ノ效力ハ選舉委員之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉委員長之ヲ決ス

第二十八條

有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ定款ニ別段ノ規定アル場合

ヲ除クノ外投票ニ記載スヘキ被選舉人ノ數ヲ選舉權者又ハ議員選舉人ノ數ニ乘シ選舉スヘキ議員ノ數ヲ以テ之ヲ除シテ得タル數ノ五分一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選者ニシテ當選ヲ辭ン若ハ死亡シタルトキ、被選舉權ヲ有セサル爲メ當選無効ト爲リタルトキ又ハ農商務大臣ノ命ニ依リ當選ヲ取消サレタルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選者ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

本條ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ其ノ順位ヲ定ム

第二十九條

選舉終了シタルトキハ選舉委員長ハ直ニ其ノ結果ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第三十條

選舉委員長ハ選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉委員ノ連署シタル選舉記録二本ヲ作

リ一本ヲ地方長官ニ差出シ一本ハ投票ヲ添ヘ之ヲ商業會議所ニ交付スヘシ

前項ノ選舉記録及投票ハ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ但シ投票ハ有效無効ニ區別シテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條

當選者定マリタルトキハ地方長官ハ直ニ之ヲ當選者ニ告知スヘシ

第三十二條

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ

十日以内ニ之ヲ地方長官ニ申出ツヘシ

一人ニシテ二以上ノ階級、選舉區又ハ業種ノ選舉ニ當選シタルトキハ最後ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申出ツヘシ其ノ申出ナキトキハ地方長官其ノ當選ノ階級、選舉區又ハ業種ヲ定ム

第三十三條

當選者ナキトキハ地方長官ハ更ニ選舉ヲ行ハシメ當選者選舉スヘキ議員ノ數ニ

達セサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ選舉ヲ行ハシムヘシ

第三十四條

第三十二條ニ依リ當選確定シタルトキハ地方長官ハ直ニ其ノ旨ヲ當選者ニ告知

スヘシ

當選者ノ氏名ハ地方長官之ヲ告示シ且之ヲ商業會議所ニ通知スヘシ

第三十五條

左ノ各號ニ該當スル者ハ十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉權者名簿ニ登錄セラレタル者

二 選舉委員、投票管理者又ハ立會人ニシテ正當ノ事由ナク本令ニ定メタル義務ヲ缺キタル者

第三十六條

選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ刑法ニ規定アル場合ヲ除

クノ外二十五日以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉權者、議員選舉人、代人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
- 二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉場ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者
- 三 選舉場ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者

第三十七條 左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ刑法ニ規定アル場合ヲ除クノ外二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

- 一 詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者
- 二 選舉權者、議員選舉人又ハ代人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者
- 三 選舉委員、投票管理者、立會人其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉事務ニ關係アル者ニシ

テ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ニ付眞僞ニ拘ラス之ヲ表示シタル者

- 四 選舉ニ關シ選舉權者、議員選舉人又ハ代人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者
- 五 選舉委員投票管理者、立會人其ノ他選舉事務ヲ監視シ又ハ選舉事務ニ關係アル者ニ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ選舉場ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留毀壞奪取シタル者

第三十八條 當選者其ノ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ農商務大臣ハ其當選ヲ取消スヘシ

第三十九條 本令中議員選舉ニ關スル規定ハ議員選舉人ノ選舉ニ之ヲ準用ス

第四十條 商業會議所法第五十條第一項ニ依リ議員ノ選舉ヲ行ハムトスルトキハ議員ノ定數選舉方法其ノ他選舉ニ關スル規定ノ認可ヲ受ケタル日ノ現在ニ依リ選舉權者名簿ヲ調製スヘシ

第四十一條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四章 商業會議所ノ議員選舉權

ニ關スル納稅額ノ件

農商務省令第十六號(明治三十五年六月)

第一條 商業會議所法第九條第二項ニ依リ納稅額ニ關スル制限ヲ左表ノ如ク定ム
營業稅、鑛業稅

第一	第二	第三	第四	其ノ他	納稅額
東京	大阪 横濱	京都 神戸 名古屋	其ノ他	其ノ他	四十圓以上 三十圓以上 二十圓以上 十圓以上

第一	第二	第三	其ノ他	納稅額
東京 大阪 横濱	京都 神戸 名古屋	其ノ他	其ノ他	一萬圓以上 三千圓以上 千圓以上

取引所稅

第二條 商業會議所法第九條第四項ニ依リ納稅額及法人ノ資本額又ハ財產ヲ目的トスル出資額ニ關スル制限ヲ左表ノ如ク定ム

第一	第二	第三	第四	第五	商業會議所所在地名	資本額又ハ出資額	所得稅
東京	大阪	横濱	京都 神戸 名古屋	其ノ他		五十萬圓以上 四十萬圓以上 三十萬圓以上 二十萬圓以上 十萬圓以上	三十圓以上 二十圓以上 二十圓以上 十五圓以上 十圓以上

第三條 本令ハ商業會議所法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四編 貨幣及紙幣

第一章 貨幣

第一節 貨幣法

貨幣法

(明治三十年三月法律第十六號、同三十九年四月法律第二十六號ヲ以テ五十錢二十錢及十錢銀貨幣ノ量目及量目ノ公差ヲ改正シ尙ホ附則ヲ設ケ改正法ハ明治三十九年六月一日ヨリ施行スヘク而シテ從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通り通用スヘキ旨ヲ規定シタリ)

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

二十錢

十錢

白銅貨幣

五錢

青銅貨幣

一錢

五厘

第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用非一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條 貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一 金貨幣 純金九百分參和銅一百分

二 銀貨幣 純銀八百分參和銅二百分

三 白銅貨幣 「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分

四 青銅貨幣 銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

銀行會社法令大全 第四編 第一章 第一節 貨幣法

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

- 一 二十圓金貨幣 四々四分四厘四毛(十六「グラム」六六六五)
- 二 十圓金貨幣 二々二分二厘二毛(八「グラム」三三三三)
- 三 五圓金貨幣 一々一分一厘一毛(四「グラム」一六六六)
- 四 五十錢銀貨幣 二々七分(十「グラム」一二五)
- 五 二十錢銀貨幣 一々零分八厘(四「グラム」〇五)
- 六 十錢銀貨幣 七分一厘八毛八(二「グラム」六九五五)
- 七 白銅貨幣 一々二分四厘四毛(一「四」「グラム」六六五四)
- 八 一錢青銅貨幣 一々九分零厘零毛八(七「グラム」一二八二〇)
- 九 五厘青銅貨幣 九分五厘零毛四(三「グラム」五六四〇)

第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

- 一 金貨幣二十圓ハ每片八毛六(四〇「グラム」〇三三四〇)一千枚毎ニ八分三厘(三「グラム」一二五〇)十圓ハ每片六毛零五(〇「グラム」〇二二六九)一千枚毎ニ六分二厘(二「グラム」三二五〇〇)五圓ハ每片六毛三(二〇「グラム」〇一六二〇)一枚毎ニ四分一厘(一「グラム」五三七五〇)トス
- 二 銀貨幣五十錢ハ每片二厘一毛六(〇「グラム」〇八一〇)一千枚毎ニ一々零分八厘(四「グラム」〇五)二十錢ハ每片一厘零毛八(〇「グラム」〇四〇五)一千枚毎ニ六分四厘(二「グラム」四〇)十錢ハ每片一厘零毛四(〇「グラム」〇三九〇)一千枚毎ニ五分六厘(二「グラム」一〇)トス

第十一條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四々四分二厘(十六「グラム」五七五〇)十圓金貨幣二々二分一厘(八「グラム」二八七)五圓金貨幣一々一分零厘五毛(四「グラム」一四三八)トス

第十二條 金貨幣トシテ磨損ノ爲通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認

ムルトキハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ
附則

第十五條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條 從來發行ノ一圓銀貨幣ハ銀貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換
フヘシ

前項引換ノ結了マテハ銀貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁
止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五
箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後金地金トシテ取扱フヘシ

第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銀貨幣ハ從前ノ通ニ通用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但右期日以前ニ收府ニ輸納シタル銀
地金ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

第二節 貨幣ノ形式

貨幣ノ形式ヲ定ムル勅令(明治三十年四月勅令第百四十四號
同三十九年勅令第百九號並二改正)
貨幣法第八條ニ依リ貨幣ノ形式ヲ定ムルコト左ノ如シ

本位金		拾圓		貳拾圓		
貨	金	拾	圓	貳	拾	
五	同上	同上	同上	略ス	貨幣圖式	
						徑尺曲
五分六厘	純金 參和銅	九百分	七分	純金 參和銅	九百分	四匁四分四毛四(十六)グラム六六五
						二匁二分二厘二毛二(八)グラム 三三三三三

補		貨 銅 白 助 補			貨		
壹		錢 五			錢 拾		
同 上		同 上			同 上		
量 目	徑 尺 曲	性 合	量 目	徑 尺 曲	性 合	量 目	徑 尺 曲
一々九分〇厘〇毛八(七「グラム」 一二八〇)	九分二厘	「ニツケル」 參和銅	一々二分四厘四毛一(四「グラム」 六六五四)	六分八厘	純銀 參和銅	七分一厘八毛八(二「グラム」六九 五五)	五分八厘

銀 助 補							
錢 拾 貳			圓 拾 五			圓	
同 上			同 上				
性 合	量 目	徑 尺 曲	性 合	量 目	徑 尺 曲	性 合	量 目
純銀 參和銅	八百分 二百分	六分七厘	純銀 參和銅	八百分 二百分	九分	純金 參和銅	九百分 一百分
	一々零分八厘(四「グラム」〇五)			二々七分(十「グラム」一二五)			一々一分一厘一毛(四「グラム」一 六六六)

貨 銅 助		錢	
厘 五		同上	
性合	量目	徑尺曲	性合
銅錫亞鉛	九分五厘〇毛四(三「グラム」五六四〇)	七分二厘	銅錫亞鉛
九百五十分			九百五十分
四十分			四十分
十分			十分

三頁

第二章 造幣

第一節 造幣規則并造幣地金及成貨受渡取扱順序

第一款 造幣規則

造幣規則(明治三十年四月勅令第百三十八號)

同三十二年二月勅令第百三十六號改正)

第一條 金貨幣ノ製造ヲ請ハントスル者ハ金地金ヲ造幣局ニ輸納スヘシ

第二條 貨幣製造ノ爲メ受取ル地金ハ品位一千分中金九百九十以上ニシテ其ノ含有物ノ性質造

幣ニ障害ナキモノニ限ル但含有物銅ノミナルトキハ金八百九十八以上トス

第三條 貨幣製造ノ爲メ受取ル地金ハ其ノ量目一百匁以上トス但金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ貨幣ノ製造ヲ請フトキハ此ノ限ニアラ

第四條 輸納ノ地金ハ輸納人又ハ其ノ代理者ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ

第五條 地金ノ品位及性質ハ試験ノ上之ヲ定ム

第六條 地金ノ試験了リタルトキハ勘定書ニ試験表ヲ添ヘ之ヲ輸納人ニ送付スヘシ

第七條 輸納人前條書類ノ送付ヲ受ケ異議ナキトキハ預リ證書ヲ提出シテ貨幣拂渡證書ヲ請求スヘシ但シ異議アル者ハ三日以内ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ此ノ期間内ニ異議ノ申告ヲ爲ササルトキハ承諾シタルモノト見做スヘシ

第八條 輸納人前條ニ依リ異議ノ申告ヲ爲シタルトキハ其ノ輸納地金ヲ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ手数料トシテ地金四貫匁其ノ端數毎ニ金參圓ヲ徴收ス

第九條 輸納地金ノ熔解減ハ輸納人ノ負擔トス

第十條 輸納地金ノ取扱ハ一般休暇日ノ外三月十六日ヨリ同三十一日マテノ間之ヲ停止ス但臨時停止ヲ要スルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二款 造幣地金及成貨受渡取扱順序

造幣地金及成貨受渡取扱順序(明治三十年五月大藏省告示第二十七號) 同三十五年同省告示九號マテ二次改正

第一條 造幣規則ニ依リ輸納ノ地金ハ輸納人ノ便宜ニヨリ大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ於テ之ヲ受取リ其代リ貨幣ハ日本銀行本店又ハ大阪同行支店ニ於テ之ヲ拂渡スヘシ

第二條 輸納地金受取ノ場所及成貨拂渡ノ場所ニヨリ左ノ割合ニヨリ運賃保險料ヲ仕拂フヘシ

大阪造幣局ニ地金ヲ輸納シ東京ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ	百圓ニ付	金拾壹錢七厘
東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ大阪ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ	百圓ニ付	金貳拾參錢五厘

第三條 輸納地金ニ對スル代リ貨幣ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂渡スヘシ但輸納ノ地金幅濫スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲナス

大阪造幣局ニ輸納シタルノ試験濟モノ翌日ヨリ	大阪ニ於テハ	五日目
東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試験濟ノ翌日ヨリ	東京ニ於テハ	十日目
造幣適當地金並精製分	東京ニ於テハ	二十日目
析ヲ要スル地金ノ金分	大阪ニ於テハ	十日目

右告示ス

第二節 金銀地金精製及品位證明并取扱順序

第一款 金銀地金精製及品位證明規則

金銀地金精製及品位證明規則(明治三十四年四月勅令第百三十九號) 同三十七年勅令第百號マテ二次改正

第一條 造幣局ハ金銀地金ノ精製又ハ品位證明ヲ請フ者アルトキハ本規則ノ定ムル所ニ依リ其ノ精製又ハ證明ヲナスヘシ

第二條 精製又ハ品位證明ノ爲メ輸納スル地金ハ品位一千分中金、銀又ハ金銀合計七百五十以上量目一百匁以上ノモノトス但シ金銀混合地金ハ品位一千分中七百五十以下ノモノト雖金二百以上ニシテ金銀合計五百以上ノモノハ之ヲ輸納スルコトヲ得

第三條 輸納ノ地金ハ輸納人又ハ其ノ代理者ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ

第四條 品位證明ノ爲メ輸納シタル地金ハ金型塊ト爲シ其ノ品位ヲ證明シ之ヲ輸納人ニ交付スヘシ

金銀混合地金又ハ精製スルニアラサレハ定型塊ト爲シ難キ地金ノ品位證明ヲ請フ者アルトキハ精製ノ上品位ヲ證明ス

第五條 造幣局ニ於テ製造スル定型塊ハ金銀各一百匁以上トス

第六條 精製ノ爲メ輸納シタル地金ノ品位證明ヲ請ヒ又ハ其ノ金分ヲ以テ貨幣ノ製造ヲ請ハントスル者ハ輸納ノ際其ノ旨申告スヘシ

第七條 輸納シタル地金試験ノ後精製又ハ品位證明ヲ爲サスシテ返付ヲ要スルトキハ手数料トシテ地金一塊金ニ金貳圓ヲ徵收ス

第八條 輸納地金ノ溶解減ハ輸納人ノ負擔トス

第九條 輸納地金ノ品位證明ヲ爲シタルトキハ手数料トシテ金ハ四百匁又ハ其ノ端數毎ニ銀ハ八匁又ハ其ノ端數毎ニ各金貳圓ヲ徵收ス

第十條 輸納地金ノ精製ヲ爲シタルトキハ左ノ割合ニ依リ手数料ヲ徵收ス

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金七拾六錢
九百五十以上 純銀一百匁ニ付 金貳拾錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金八拾參錢
九百以上 純銀一百匁ニ付 金貳拾參錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金九拾壹錢
八百五十以上 純銀一百匁ニ付 金貳拾七錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金壹拾貳圓
八百以上 純銀一百匁ニ付 金參拾貳錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金壹圓拾錢
七百五十以上 純銀一百匁ニ付 金參拾八錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金壹圓貳拾錢
七百以上 純銀一百匁ニ付 金四拾四錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金壹圓參拾錢
六百五十以上 純銀一百匁ニ付 金五拾壹錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金壹圓四拾錢
六百以上 純銀一百匁ニ付 金五拾八錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金壹圓五拾錢
五百五十以上 純銀一百匁ニ付 金六拾六錢

一千分中金銀 純金一百匁ニ付 金壹圓六拾錢
五百以上 純銀一百匁ニ付 金七拾四錢

附則

銀行會社法令大全 第四編 第二章 第二節 第二款金銀地金精製及品位證明規則 三百五

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

輸納地金ノ精製手數料ニ關スル勅令(明治三十二年二月勅令第三十七號)

金銀地金精製及品位證明規則第十條ニ依ル輸納地金ノ精製手數料ハ當分ノ内金分ニ付テハ之ヲ徵收セス

第二款 金銀地金精製及品位證明取扱順序

金銀地金精製及品位證明取扱順序(明治三十年五月大藏省告示第二十八號同三十七年同省告示第四一號並數次改正)

第一條 金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ輸納ノ地金ハ輸納人ノ便宜ニヨリ大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ於テ受取り精製又ハ證明濟ノ上大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ於テ之ヲ拂戻スヘシ

第二條 輸納地金受取ノ場所及ヒ拂戻ノ場所ニヨリ左ノ割合ニヨリテ運賃保險料ヲ支拂フヘシ

大阪造幣局ニ地金ヲ輸納シ東京造幣支局ニ於テ拂戻スモノ	金塊	純金一百匁ニ付	金五拾八錢五厘
東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ大阪造幣局ニ於テ拂戻スモノ	銀塊	純銀一百匁ニ付	金四錢六厘

東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ東京造幣支局ニ於テ拂戻スモノ
 但シ運搬ヲ要セサル地金ハ此限ニアラス

金塊	純金一百匁ニ付	金壹圓拾壹錢壹厘
銀塊	純銀一百匁ニ付	金九錢貳厘

第三條 輸納地金ニ對スル定型塊(量目一百匁未満ハ地金)及精製地金ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂戻スヘシ但輸納ノ地金幅狭スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂戻ヲナスヘシ

一 精製ヲ要セサル地金ハ輸納ノ翌日ヨリ七日目

一 精製ヲ要スル地金ハ左ノ如シ

大阪造幣局ニ輸納シタルモノ	十五日目
試驗濟ノ翌日ヨリ本局ニ於テハ	二十日目
支局ニ於テハ	二十日目
東京造幣支局ニ輸納シタルモノ	三十日目
試驗濟ノ翌日ヨリ支局ニ於テハ	二十日目
本局ニ於テハ	二十日目

大阪造幣局ニ輸納シタルモノ	二十日目
試驗濟ノ翌日ヨリ本局ニ於テハ	二十五日目
支局ニ於テハ	二十五日目
東京造幣局ニ輸納シタルモノ	三十五日目
試驗濟ノ翌日ヨリ支局ニ於テハ	二十五日目
本局ニ於テハ	二十五日目

右告示ス

三百八

第三章 紙幣及銀行券

第一節 紙幣

第一 政府發行紙幣通用廢止

法律第六號(明治三十一年六月)

政府發行ノ紙幣ハ明治三十二年十二月三十一日限り其ノ通用ヲ廢止ス

第二 國立銀行紙幣通用及引換期限

法律第八號(明治廿九年三月)

第一條 國立銀行紙幣ノ通用期限ハ明治三十二年十二月九日トス

第二條 國立銀行紙幣ヲ所持スル者ハ前條期日ノ翌日ヨリ起算シ滿五年内ニ其ノ引換方ヲ政府ニ請求スヘシ

前項ノ引換期日ヲ過クルトキハ總テ所持人ノ損失トス

第三條 本法ハ官命又ハ平穩鎮店ニ係ル國立銀行發行ノ紙幣ニハ之ヲ適用セス

第二節 銀行券

第一款 兌換銀行券條例

兌換銀行券條例(明治十七年五月布告第十八號 同三十二年法律五五迄數次改正)

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ金貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同類ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

日本銀行ハ前項ノ外特ニ壹億貳千萬圓ヲ限り政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項壹億貳千萬圓ノ内貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス

日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下

ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但シ其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ定ム
日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府へ貸付スヘシ
前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ各
種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其製
造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及支店ニ於テ營業時間中何時ニ
テモ兌換スヘシ但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ
得

第七條 金貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換シコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支
店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之
ヲ大藏大臣ニ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ

第九條 大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官
ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手元有高及帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手
數料ニテ之ヲ取換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消却等ノ手數ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第二款 雜則

第一 兌換銀行券ノ内百圓券改造ノ件

大藏省告示第五十五號(明治三十三年
十二月)

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例ニ依リ日本銀行ヨリ發行スル兌換銀行券ノ内百圓券
ヲ改造シ本年十二月二十五日ヨリ發行ス其見本略圖ハ左ノ通り

兌換銀行券百圓

寸法 縱 三寸四分四厘
橫 五寸九分五厘

用紙滙入

(百圓ノ文字 黒 滙
藤 模 様 黒及白滙)

(見本略圖ハ之ヲ略ス)

第二 發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月 平均發行高ニ關スル件

大藏省第九號

(明治三十二年三月同三五年
同省令第二八號ヲ以テ改正)

本年法律第五十六號ニ依リ發行稅ヲ課スヘキ兌換券ノ每一箇月平均發行高ハ毎日ノ現發行高ヨリ政府ノ特命ニ依リ一箇年千分ノ十若ハ其ノ以内ノ利息又ハ無利息ヲ以テ貸付ケタル金額ヲ控除シタルモノヲ一箇月分加算シ其ノ月ノ日數ヲ以テ除シタルモノトス
稅額ハ一箇月毎ニ算出シ其ノ六箇月分ヲ合計シテ半季分ノ稅額トス
日本銀行ハ左記様式ニ準シ毎月平均發行額表ヲ調製シ翌月五日限り之ヲ所轄稅務署ニ報告ス
ヘシ

(様式ハ之ヲ略ス)

第三 臺灣銀行券ニ關スル件

律令第十二號

(明治三十三年
七月)

臺灣銀行ヨリ發行スル銀行券ハ租稅其他政府ノ收納金及一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

前項銀行券ノ偽造變造及其取受行使ニ關スル犯罪ニ付テハ刑法第二編第四章第一節ノ規定ヲ準用ス

第三節 贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

(明治九年四月
布告第五七號)

第一條 新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳カニ其原由及ヒ持主ノ寄宿姓名ヲ尋ネ其面前ニ於テ斷截シ速カニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區戶長ニ差出シ其顛末ヲ申出ツヘシ若シ官廳ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來ル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同

等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞ヘシ

第三條 若シ正贋定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前

ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之レニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ニ差出スヘシ然ルトキハ

該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノ

ハ直ニ持人ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還

附スヘシ

第五條 贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還附シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處

罰ヲ爲スヘシ

第五編 國債大藏省證券及貯蓄債券

第一章 國債

第一節 新舊公債

新舊公債證書發行條例(明治八年五月布告第九十五號 同廿一年勅令第七十三號改正)

明治六年(三月)第百十五號及ヒ同七年(六月)第六十六號布告新舊公債證書發行條例別冊ノ通

改定候條此旨布告候也

(別冊)

明治五壬申年迄ノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ通債ヲ改テ政府ノ公債トシテ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債證書ヲ交附シ定期ヲ逐テ之ヲ償却スルニ政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明ニス)

第一節 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治

元戊辰年太政更始以後明治四辛未年七月廢藩迄及明治五壬申年迄ノ間舊諸縣ニ於テ借用シ

タルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第五トシ證書面ノ金高ヲ金五百圓
參百圓壹百圓五拾圓貳拾五圓ノ五種ニ區別スヘシ

第三節 新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元高ヲ償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部分
ニ別テ(いろは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 (新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明ニス)

第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十ヶ年賦トシ其年
ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都
合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ
隨テ之ヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元金百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九年マテ
毎年六月一日ヨリ十五日迄十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文總テ其金
額ハ大藏省ノ都合ニヨリ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)但シ明治八年ヨリ抽籤法
ヲ以テ元金ヲ拂ヒ戻スニ當リテハ年四分ノ利息月割ヲ以テ各抽籤法行ヒシ月マテノ分下
渡スヘシ

第三條 (削除)

第四條 (同上)

第五條 (新公債證書拂方諸般ノ手續ヲ明ニス)

第一節 (削除)

第二節 (同上)

第三節 (同上)

第四節 (同上)

第五節 凡ソ公債元金並ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シテ受取方申出テス其拂渡スヘキ年ノ
翌年ヨリ向五ヶ年ヲ過ク^ルトキハ之ヲ償還セサルヘシ但シ起業公債證書(記名無記名)モ本
節ニ準ス

第六條 (削除)

第七條 (同上)

第八條 (同上)

第九條 (同上)

第十條 (同上)

第十一條 (同上)

第十二條 (同上)

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補シ又ハ之ヲ改正スルコトアルヘシ

第二節 右増補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ
右ノ通相定候事

(附錄圖面ハ之ヲ略ス)

第二節 金祿公債

金祿公債證書發行條例 (明治九年八月布告第十號)

(同二十一年勅令第三號改正)

家祿賞典祿ノ儀永世一代或ハ年限等ヲ以テ給與有之候處其制限ヲ改メ來明治十年ヨリ別紙條例ノ通公債證書ヲ以テ一時ニ下賜候條此旨布告候事

(別紙)

金祿公債證書發行條例

第一條 華士族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一時ニ之ヲ下渡スルコトト

爲シ以テ公債證書ヲ附與スヘシ

一 永世祿ノ者ヘハ

金祿元高 賞典祿アルモノハ家祿ニ合計シ元高トス

年限

(七萬圓以上)

五ヶ年分

(六萬圓未滿六萬圓以上)

五ヶ年二分五厘分

(五萬圓未滿五萬圓以上)

五ヶ年半分

(四萬圓未滿四萬圓以上)

五ヶ年七分五厘分

(三萬圓未滿三萬圓以上)

六ヶ年分

(二萬圓未滿二萬圓以上)

六ヶ年二分五厘分

(一萬圓未滿一萬圓以上)

六ヶ年半分

(七千五百圓未滿五千圓以上)

六ヶ年七分五厘分

(五千圓未滿二千五百圓以上)

七ヶ年分

(二千五百圓未滿千圓以上)

七ヶ年二分五厘分

(七ヶ年半分)

銀行會社法令大全 第五編 第一章 第二節 金祿公債

右一ケ年五分ノ利子ヲ給ス

(千圓未滿九百圓以上) 七ケ年七分五厘分

(九百圓未滿八百圓以上) 八ケ年分

(八百圓未滿五百圓以上) 八ケ年二分五厘

(七百圓未滿六百圓以上) 八ケ年半分

(六百圓未滿五百圓以上) 八ケ年七分五厘分

(五百圓未滿四百五十圓以上) 九ケ年分

(四百五十圓未滿四百圓以上) 九ケ年二分五厘分

(四百圓未滿三百五十圓以上) 九ケ年半分

(三百五十圓未滿三百圓以上) 九ケ年七分五厘分

(三百圓未滿二百五十圓以上) 十ケ年分

(二百五十圓未滿二百圓以上) 十ケ年二分五厘分

(二百圓未滿百五十圓以上) 十ケ年半分

(百五十圓未滿百圓以上) 十一ケ年分

右一ケ年六分ノ利子ヲ給ス

(百圓未滿七十五圓以上) 十一ケ年半分

(七十五圓未滿五十圓以上) 十二ケ年分

(五十圓未滿四十圓以上) 十二ケ年半分

(四十圓未滿三十圓以上) 十三ケ年分

(三十圓未滿二十五圓以上) 十三ケ年半分

(二十五圓未滿以下) 十四ケ年分

右一ケ年七分ノ利子ヲ給ス

一終身祿ノ者へハ

右永世年限十分ノ五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

一年限祿ノ者へハ

十年以上ノ者へハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス

(十年未滿八年以上)ノ者へハ右永世年限十分ノ三五ヲ給ス

(八年未滿六年迄)ノ者へハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス

(六年未滿四年迄)ノ者へハ右永世祿年限八分ノ二五ヲ給ス

(四年未滿二年迄)ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二ヲ給ス
二年ノ者ハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ニ同シ

第二條 此ノ公債證書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之レニ準シ
年々兩度ニ下渡スコトトス

第三條 家祿賞典祿元高ヲ附與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルトキ元高ニ向テ公債證
書ヲ附與スル制限左ノ如シ

一金壹萬圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六萬五千圓此公債證書ノ利子一ヶ年五歩金參千貳百五拾圓ト成ル
一金九千九百圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六萬六千八百貳拾五圓此公債證書ノ利子一ヶ年五歩金參千參百
四拾壹圓貳拾五錢トナル

右比較九千九百圓ノ方利子九拾壹圓貳拾五錢ノ過ト成ル然ル時ハ壹萬圓ノ利子金額ニ超過
セサルヲ以テ制限トナル故ニ九拾壹圓貳拾五錢ヲ引去リ利子參千貳百五拾圓ニ適當スル公

債證書ヲ下渡スヲ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債證書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云モ其發行スル種類ハ左ノ如シ

- 五圓 拾圓 貳拾五圓 五拾圓 百圓 參百圓 五百圓 千圓
- 五千圓

第五條 前條公債證書ヲ附與スルトキニ當リテ公債證書ニ未滿ノ端金ハ都テ通貨ニテ相渡ス
ヘシ

第六條 此公債證書ノ元高ハ五ヶ年間之ヲ据置キ六ヶ年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎年抽籤
ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ヶ年間ニ悉皆之ヲ消却スヘシ

第七條 此公債證書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債證書發行條例
ノ通リタルコトト心得ヘシ

第二節 祿高整理公債發行及端數現金請求ニ關スル手續

大藏省令第五十二號(明治三十八年一月)(家祿賞典祿處分方法及施行法等ノ法令ハ之ヲ畧ス)

第一條 家祿賞典處分法施行法ニ依リ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ハ大日本帝國政府五分
利公債證書トス

前項ノ公債證書ニハ明治三十九年三月渡以降ノ利札ヲ附スルモノトス

第二條 公債證書及端數現金ノ給付ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ請求書ニ市町村長ノ證明ヲ經タル印鑑ヲ添ヘ之ヲ當省ニ差出スヘシ

第三條 家祿賞典祿ノ處分出願ニ對スル指令書ニ於テ指名セラレタル受給者ノ承繼人カ前條ノ請求ヲ爲サントスルトキハ戶籍又ハ身分登記簿ノ謄本若ハ抄本ヲ請求書ニ添附スヘシ
受給者ノ代理人カ前條ノ請求ヲ爲サントスルトキハ前項ノ規定ニ準シ其ノ權限ヲ證明スルコトヲ要ス

第四條 公債證書ヲ請求者ニ給付スルトキハ第二號書式ノ給付通知書ヲ發スルモノトス
受取人ハ前項ノ通知書領收證欄内ニ式ノ如ク署名捺印シ指定ノ取扱店(日本銀行本店支店又ハ代理店)ニ差出シ之ト引換ニ證書ヲ受取ルヘシ
(書式ハ之ヲ略ス)

第四節 金札引換公債

第一款 金札引換公債證書發行條例

改定金札引換公債條例(明治三十三年十月布告第四十七號 同廿一年勅令第七十三號改正)

第一章 總則

第一條 金札引換公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ支拂フモノトス

第二條 金札引換公債證書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五拾圓ノ三種トス

第三條 「何人ニテモ(外國人ヲ除ク)前條ニ記載スル各種證書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債證書ニ交換スルコトヲ得ヘシ」(適用停止)

第四條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘシ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三箇年据置四箇年目ヨリ向十二箇年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一箇年六分(百分ノ六)トシ元金償却ニ至ル迄毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ但抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日後ニ係レハ半ヶ月分ヲ下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシトキ迄ノ分下渡スヘシ

第三章 證書ノ交付及簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債證書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣竝ニ紙幣ノ高ヲ記載シ

銀行會社法令大全 第五編 第一章 第四節 金札引換公債證書發行條例

タル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ

第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取り其受領證ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ證ト共ニ金札引換公債證書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ

第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領書ヲ交付スルコト各月十五日以前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債證書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ竝ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管廳ヘ送達スヘシ

第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛ノ簿冊ニ登記シ及ヒ證書裏面ノ右側へ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加ヘ本人ハ渡置キタル受領證ト引換ヘニ證書ヲ交付スヘシ

第十一條 公債證書ト引換ヘタル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ證書ノ受取ヲ記サシメ翌月五日迄ニ之ヲ取纏メ明細表ヲ添ヘ大藏省國債局ヘ送致スヘシ

第四章 證書ノ様式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債證書ハ従前ノ金札引換公債證書無記名利札ノ様式ヲ用ヒ不要矛盾ノ文字ハ朱書ヲ以テ點竄スヘシ

第十三條 (削除)

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ證書ト引換エヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年(五月)第九十五號布告改正新舊公債證書發行條例第四條ヨリ第十二條迄及ヒ右ニ關シ爾來改正増補ノ箇條ニ準據スヘシ

第二款 金札引換無記名公債證書條例

金札引換無記名公債證書條例(明治十六年十二月布告第四十八號 同廿一年勅令第七十三號ニテ改正)

第一條 金札引換無記名公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共銀貨ヲ以テ支拂フモノトス

第二條 此公債證書ト交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモノトス但大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ其申込ヲ拒ムコトアルヘシ

第三條 此公債證書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年六分トス

第五條 此公債證書ハ證書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト定ム此證書ヲ引受ケンコトヲ望ムモノハ隨時日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申出ヘシ

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ五ケ年据置其翌年ヨリ向フ三十箇年ヲ限リ毎年抽籤ヲ以テ償還スヘシ

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スルモトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日以後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレ

ハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 (削除)

第十條 (同上)

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 (削除)

第十三條 (同上)

第十四條 (同上)

第十五條 (同上)

第十六條 (同上)

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五年ヲ過クルトキハ之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ増補改正スルコトアルヘシ

右奉敕旨布告候事

第五節 鐵道公債

第一款 中山道鐵道公債

中山道鐵道公債證書條例(明治十六年十二月布告第四十七號 同十七年第十七號布告ヲ以テ改正)

第一條 中山道鐵道公債證書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下義濃國大垣ニ至ルマテ中山

銀行會社法令大全 第五編 第一章 第五節 第一款 中山道鐵道公債

道ニ沿ヒ及ヒ大垣ヨリ三重縣下伊勢國四日市ニ至ルマテ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス

第二條 此公債證書發行高ハ貳千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ計リ漸次之ヲ發行スルコトヲ得其ノ發行ノ手續ハ大藏卿時時之ヲ定ムルモノトス

第三條 此公債證書ハ無記名利札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

第五條 此公債證書引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過スルトキハ其超過高ニ比例シ各申込人ヘ對シ證書渡高ヲ減少スルモノトス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムルモノトス

第六條 此公債證書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債證書ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨリ向フ二十五ヶ年ヲ限リ毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルトキハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ

滿期ニ至リ償還ノ證書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

此公債ノ元利金額ハ總テ通貨ヲ以テ仕拂フモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ各下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取り之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債證書多額所持スルモノハ十名以上竝大藏省國債記錄兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤證書ノ記號番號種類高金等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシトキハ其事由竝證書面ノ金高記號番號及所有セシトキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘ

亡失ノ證書ヲ發見セス其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該證書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債證書當籤トナリ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其證書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルトキハ其當籤ノ效ヲ失フモノトス

第十五條 此公債證書汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ證書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其證書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ證認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ

第十六條 此公債證書引換又ハ償還ノトキ其證書汚染毀損シ金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡失證書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年ヲ過ルトキハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

右奉敕旨布告候事

第二款 鐵道費補充公債條例

鐵道費補充公債條例(明治二十二年一月勅令第六號)

第一條 鐵道費補充公債ハ神奈川縣下戸塚橫須賀間滋賀縣下大津長濱間ノ鐵道布設資金ヲ補充スルカ爲メニ證書額面貳百萬圓ヲ限リ募集スルモノトス

第二條 此公債募集ノ方法元金ノ償還年限利子歩合利子支拂期月及ヒ其他ノ事項ハ總テ明治十九年敕令第六十六號整理公債條例ニ依ル

第六節 整理公債

整理公債條例(明治十九年十月勅令第六十六號同三十九年勅令一三六號追改)

第一條 整理公債ハ従前發行ノ六分以上上利附ノ内國債ヲ償還整理スルカ爲メニ募集スルモノトス

第二條 整理公債ハ壹億七千五百萬圓ヲ限リ大藏大臣財政ノ便宜ヲ計リ漸次之ヲ募集スルモノトス

第三條 整理公債利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス

第四條 整理公債ニ對シ發行スル證書ハ無記名利札附トス但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名ス

第五條 整理公債證書ノ種類及様式ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第六條 整理公債ヲ募集スルトキハ其總額價格應募申込日限應募金拂込度數等ハ大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ手續ニ據ラス市場ノ時價ニ準シ整理公債證書ノ價格ヲ定メ臨時之ヲ發行シテ日本銀行ニ交付スルコトヲ得但發行シタル證書ノ金額及價格ハ大藏大臣其發行ノ翌日之ヲ告示スヘシ

第七條 整理公債應募高每期需要ノ額ニ超過スルトキハ大藏大臣ハ應募價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需要額ニ滿ルニ至テ止ム其價格同シキモノハ申込ノ高ヲ割合減少スルモノトス但時宜ニ依リ貳百圓以下ノ應募者ニハ之ヲ減少セサルコトアルヘシ

第八條 整理公債應募金ノ拂込ヲ數回ニ分ツ場合ニ於テ拂込期ノ末日マテニ拂込未済ノモノアルトキハ其翌日ヨリ現拂込ノ日マテ一箇年百分ノ七ノ割合ヲ以テ利子ヲ徵收スヘシ
前項拂込期日後三箇月ヲ過キ猶ホ拂込ヲ爲ササルトキハ公債證書ヲ交付セス且既ニ拂込ノ

金額ハ還附セサルモノトス

第九條 整理公債元金ハ募集ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向五十箇年間抽籤法ヲ以テ償還スルモノトス但償還金額ハ其時々大藏大臣之ヲ定メ豫メ告示スヘシ

第十條 (削除)

第十一條 整理公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ支拂フモノトス

第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十三條 整理公債證書ノ利札ハ利子請取ノ時其所有者各自之ヲ截斷シテ日本銀行本支店又ハ代理店ニ持參スヘシ

第十四條 整理公債元利ノ支拂ヲ請求セサルモノアルトキハ元金ハ償還ノ月ヨリ滿十五箇年利子ハ支拂ノ期月後五箇年ヲ過クレハ之ヲ支拂ハサルヘシ但證書ノ紛失汚染及毀損等ニ由リ元利ノ支拂ヲ見合セ及ヒ訴訟事件ニ由リ請求ヲ爲シ難キ場合アルトキハ其間ノ日數ヲ算セス

第十五條 (削除)

第十六條 (同上)

(以下第三十二條迄凡テ削除セラル)

第七節 海軍公債

海軍公債證書條例 (明治十九年六月勅令第四十七號)

(同二十年勅令第一號ヲ以テ改正)

第一條 海軍公債證書ハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ壹千七百萬圓ヲ限リ三箇年間ニ漸次之ヲ發行スルモノトス

第二條 此公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 此公債ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五箇年据置其翌年ヨリ向三十箇年間ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還ス

第四條 此公債證書發行ノ價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 此公債證書ハ無記名札附ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トシ其様式ハ大藏大臣之ヲ定ム但應募者又ハ所有者ノ望ニ由リ記名トスルコトヲ得

第六條 此公債證書引受申込高毎期需用ノ高ニ超過スルトキハ其申込價格ノ高キモノヨリ順次證書ヲ交付シ需用ニ滿ツルニ至テ之ヲ止ム

第七條 此公債ノ利子ハ毎年五月十一月ニ拂渡スモノトス

第八條 此公債證書抽籤ノ時ハ大藏省官吏三名以上會計検査院官吏二名以上及日本銀行役員二名以上立會ノ上之ヲ執行ス但此公債證書額面拾萬圓以上ヲ有スルモノハ抽籤ノ席ニ臨コトヲ得

第九條 此條例ノ外事項ハ總テ明治十九年(十月)敕令第六十六號整理公債證書條例ニ據ル

第八節 軍事公債

第一款 軍費支辨ノ爲公債募集ニ關スル件

法律第二十五號 (明治二十七年十月)

清國及朝鮮國トノ交渉事件ニ關スル軍費支辨ノ爲メ壹億圓ヲ限リ一箇年六朱以下ノ利子ヲテ漸次公債ヲ募集シ若クハ借入金ヲ爲スコトヲ得但募集借入ノ方法規約償還年限其他必要ノ事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

法律第八號 (明治二十八年三月)

清國トノ交渉事件ニ關スル軍費支辨ノ爲更ニ壹億圓ヲ限リ一箇年六朱以下ノ利子ヲ以テ

銀行會社法令大全 第五編 第一章第八節第一款軍費支辨ノ爲公債募集ニ關スル件 三百三十七

公債ヲ募集シ若クハ借入金ヲ爲スコトヲ得但募集ノ價額及募集借入ノ方法規約償還年限其
他必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二款 軍事公債條例

軍事公債條例(明治二十七年八月勅令第四百四十四號)

第一條 軍事公債ハ敕令第四百十三號ニ依リ金額五千萬圓ヲ限リ漸次募集スルモノトス

第二條 此ノ公債ノ利子ハ一箇年百分ノ六以下トシ元金償還ニ至ルマテ毎年六月及十二月
兩度ニ之ヲ支拂フ

第三條 此ノ公債ノ元金ハ證書發行ノ年ヨリ五箇年据置其ノ翌年ヨリ向五十箇年以内ニ償
ス

第四條 此ノ公債ヲ募集スルニ付キ其ノ總額、價格、利子歩合、應募申込日限、應募金拂込度
其ノ他必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 此ノ公債證書ノ交付凡利仕拂ニ關スル時効證書ノ取扱其ノ他此ノ條例ヲ以テ規定
サル事項ハ總テ明治十九年敕令第六十六號整理公債條例ニ據ル

第九節 事業公債

第一款 事業公債條例

事業公債條例(明治二十九年三月法律第五十九號同三十六年法律第七號第二次改正)

第一條 事業公債ハ既設官線鐵道改良、北海道鐵道建設、製鋼事業、電話擴張ノ費途、葉煙草專
賣資金及國防事業ノ費用ニ充ツルカ爲證書額面壹億七千五百萬圓ヲ限リ漸次之ヲ募集ス

第二條 本公債ノ利子ハ一箇年百分ノ五以下トシ募集ノ都度大藏大臣之ヲ定ム

第三條 本公債ニ關シ本條例ニ規定セサルモノハ明治十九年敕令第六十六號整理公債條例ノ
各條項ヲ適用ス

第二款 臺灣事業公債

臺灣事業公債法(明治三十二年三月法律第七十五號)

第一條 臺灣ニ於テ左ノ事業ニ要スル經費ニ充ツル爲政府ハ參千五百萬圓ヲ限リ公債ヲ募集
スルコトヲ得

一 鐵道敷設

銀行會社法令大全 第五編 第一章 第九節 第二款 事業公債條例

二 土地調査

三 築港

四 廳舎建築

第二條 此ノ公債ノ利率ハ一箇年百分ノ五以下トス

第三條 此ノ公債ノ据置年限ハ十箇年以内トシ發行ノ年ヨリ四十五箇年以内ニ償還ス

第四條 政府ハ特約ニ依リ銀行若ハ債主組合ヲシテ此公債ヲ引受ケシムルコトヲ得

第五條 政府ハ第一條ノ經費ヲ繰替支辨スル爲一箇年以内ノ期限ヲ以テ臺灣銀行ヨリ一時借入金ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル利率ハ政府之ヲ定ム

前項借入金ハ此ノ公債募集金ヲ以テ之ヲ償還スルコトヲ得公債募集金ニ依ラスシテ之ヲ償還シタルトキハ其ノ金額ニ相當スル公債ヲ募集セス

第六條 此ノ公債及前條ノ借入金ハ舊壹圓銀貨幣ヲ以テ起債スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ公債證書ノ種類ハ政府之ヲ定ム

第七條 此ノ法律ニ規定スルモノノ外ハ明治十九年勅令第六十六號整理公債條例ニ依ル

第三款 雜則

第一 鐵道公債及事業公債利子支拂期改正ノ件

法律第一號(明治三十年)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法明治二十九年法律第五十九號事業公債條例及明治二十九年法律第九十三號北海道鐵道敷設法ニ依ル公債ノ利子ハ毎年二月九月ニ於テ支拂フモノトス

第二 鐵道公債事業公債證書ノ様式及名稱變更ノ件

大藏省告示第七十六號(明治三十年)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法同二十九年法律第五十九號事業公債條例及同年法律第九十三號北海道鐵道敷設法ニ據リ一箇年百分ノ五ノ利率ヲ以テ起債スル公債證書ハ其様式ヲ同一ニシ大日本帝國政府五分利公債證書ノ名稱ヲ以テ發行ス但證書及月割利札ノ見本ハ日本銀行本支店及代理店ニ備ヘ置カシム照鑑ヲ要スルモノハ就テ觀ルヘシ

第十節 臨時公債及募集

第一款 國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル法令

第一 國債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル件

銀行會社法令大令 第五編第一章第十節第一款國債ヲ外國ニ募集スル場合ノ法令 三百四十一

法律第一百一號(明治三十二年四月、同三十四年)
法律第十八號ヲ以テ本法中改正)

明治二十五年法律第四號鐵道敷設法明治二十九年法律第五十九號事業公債條例明治二十九年法律第九十三號北海道鐵道整設法及明治三十二年法律第七十五號臺灣事業公債法ニ據ル公債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニハ外國貨幣ヲ以テ證書ノ金額ヲ記載シ其證書ノ種類元金ノ据置年限、募集、償還、利子ノ計算及仕拂ニ關スル方法其ノ他必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得但シ償還期限ハ公債募集ノ年ヨリ起算シ五十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二 英國倫敦ニ於テ募集ノ公債ニ關スル手續方法

大藏省令第二十二號(明治三十二年五月)

英國倫敦ニ於テ募集スル公債ニ關シ手續方法等左ノ通相定メ明治三十二年五月三十一日ヨリ施行ス

第一條 帝國四分利付英貨公債壹千萬磅ノ募集ハ橫濱正金銀行「パース」銀行、香港上海銀行及「チャータード」銀行ノ組織スル「シンジケート」ヲシテ之ヲ引受ケシム

第二條 此ノ公債證券ハ無記名利札付トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ五拾磅壹百磅及五百

磅ノ三種トス

第三條 此ノ公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四トス

第四條 此ノ公債ノ元金ハ明治三十二年一月一日ヨリ起算シ十箇年間据置キタル後四十五箇年間ニ抽籤法ニ依リ便宜之ヲ償還スヘシ

第五條 此ノ公債ノ利子ハ毎年六月十二月ニ於テ仕拂フヘシ

第六條 元金ノ拂込ハ明治三十二年六月ヨリ十月マテ六回トシ本年分ノ利子ハ十二月ニ於テ半箇年分ヲ仕拂フヘシ

第二款 臨時事件費支辨ニ關スル件及公債募集手續

第一 臨時事件費支辨ニ關スル件

法律第一號(明治三十七年三月)

第一條 臨時事件費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ、國庫債券ヲ發行シ、特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

第二條 一時借入金、國庫債券及公債ノ額ハ通シテ貳億八千萬圓以内トス

本法及明治三十六年敕令第二百九十一號ニ依ル一時借入金、國庫債券及特別會計ニ屬スル

銀行會社法令大全 第五編 第一章 第十節第二款臨時事件費支辨及公債募集手續 三百四十三

資金繰替ヲ整理償還スル爲必要ナル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

第三條 一時借入金、國庫債券及公債ノ利率、募集借入ノ方法規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

第二 英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ
募集スル公債ニ關スル件

勅令第三百二十八號(明治三十七年五月)

第一條 明治三十七年法律第一號ニ依リ英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ英貨公債千萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條 本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ六トス

第三條 本公債ノ元金ハ明治四十四年四月五日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四

十年四月五日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店及橫濱正金銀行紐育出張所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證書ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條 本公債ノ利子ハ毎年四月五日及十月五日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條 本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ百磅及二百磅ノ二種トス

英貨ト米貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙トス

第六條 本公債ノ滿期利札及償還當籤證券ハ二志零片半ヲ壹圓ノ割合ニテ關稅收納ノ爲差支ナク受取ラルヘシ

第七條 本公債元利金ノ償還ハ關稅收入ヲ以テ優先ニ擔保セラル、モノトス

第八條 本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十三磅十志トス

第九條 本公債ノ元金ハ明治三十七年五月ヨリ八月マテ毎月一回宛四回ニ拂込ムヘシ

銀行會社法令大令 第五編 第一章 第十節第二款臨時事件費支辨及公債募集手續 三百四十五

前項公債募集金ニ對シテハ本年十月五日ニ於テ前半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三款 臨時事件費支辨ノ爲公債募集ニ關スル件

第一 公債募集ニ關スル件

勅令第二百二十八號(明治三十七年十月)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條及第七十條ニ依リ公債募集ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ハ臨時事件費支辨ノ爲公債壹億貳千萬圓ヲ募集スルコトヲ得

前項公債ニ關シテハ明治三十七年法律第一號第三條及第四條ノ規定ヲ適用ス

第二 英國倫敦及北米合衆國ニ於テ

募集スル公債ニ關スル件

勅令第二百二十九號(明治三十七年十月)

第一條 明治三十七年勅令第二百二十八號ニ依リ英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ英貨公債千貳百萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條 本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ六トス

第三條 本公債ノ元金ハ明治四十四年十月五日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四十四年四月五日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店及橫濱正金銀行紐育出張所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條 本公債ノ利子ハ毎年四月五日及十月五日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條 本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ百磅及二百磅ノ二種トス英貨ト米貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙トス

第六條 本公債ノ滿期利札及償還當籤證券ハ二志零片半ヲ壹圓ノ割合ニテ關稅收納ノ爲差支

銀行會社法令大全 第五編 第一章第十節第三款臨時事件費支辨ノ爲公債募集ノ件 三百四十七

ナク受取ラルヘシ

第七條 本公債元利金ノ償還ハ關稅收入ヲ以テ擔保ス但シ其ノ順位ハ明治三十七年五月發行六分利付英貨公債ノ次トス

明治三十七年五月發行六分利附英貨公債償還ノ後ハ本公債ハ關稅收入ヲ以テ優先ニ擔保セラルヘシ

第八條 本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十磅十志トス

第九條 本公債ノ元金ハ明治三十七年十一月ヨリ明治三十八年二月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十八年四月五日ニ於テ前半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

第四款 臨時事件費支辨及公債募集ニ關スル件

第一 臨時事件費支辨ニ關スル件

法律第十二一號(明治三十七年十二月
同三十八年一月公布)

第一條 臨時事件費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ、國庫債券ヲ發行シ、特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

前項ノ一時借入金、國庫債券及公債ノ額ハ通シテ四億五千五百萬圓以內トス

第二條 明治三十六年勅令第二百九十一號明治三十七年法律第一號同年勅令第二百二十八號

及本法ニ依ル國庫債券及公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ國庫債券ヲ發行シ、公債ヲ募集シ又ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第三條 前二條ニ依ル一時借入金、國庫債券及特別會計ニ屬スル資金繰替ヲ整理償還スル爲必要アル場合ニ於テハ第一條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得

第四條 政府ハ臨時軍事費出納上一時ノ不足ヲ補充スル爲其ノ歲入ヲ以テ償還スヘキ大藏省證券ヲ發行スルコトヲ得

前項大藏省證券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外總テ大藏省證券條例ノ規定ヲ適用ス

第五條 一時借入金、國庫債券及公債ノ利率、募集借入ノ方法規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

第二 英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ募集スル公債ニ關スル件

勅令第七十八號(明治三十八年)

三百五十一

第一條 明治三十八年法律第十二號ニ依リ英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ英貨公債參千萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條 本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四半トス

第三條 本公債ノ元金ハ明治五十八年二月十五日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四十三年二月十五日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店及橫濱正金銀行紐育出張所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條 本公債ノ利子ハ毎年二月十五日及八月十五日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條 本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ百磅、二百磅及五百磅

ノ三種トス

英貨ト米貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙トス

第六條 本公債元利金ノ償還ハ煙草專賣益金ヲ以テ優先ニ擔保セララルモノト

第七條 本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十磅トス

第八條 本公債ノ元金ハ明治三十八年三月ヨリ同年七月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十八年八月十五日ニ於テ全年箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

第五款 臨時事件費支辨ノ爲公債募集ノ件

第一 臨時事件費支辨ノ爲公債募集ニ關スル件

勅令第九十四號(明治三十八年)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條及第七十條ニ依リ公債募集ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

政府ハ臨時事件費支辨ノ爲公債參億圓ヲ募集スルコトヲ得

前項公債ニ關シテハ明治三十八年法律第十二號第五條及第六條ノ規定ヲ適用ス

第二 英國倫敦北米合衆國紐育及獨逸國

銀行會社法令大令 第五編 第一章第十節第五款臨時事件費支辨ノ爲公債募集ノ件 三百五十一

ニ於テ募集スル公債ニ關スル件

三百五十二

勅令第九十五號(明治三十八年七月)

第一條 明治三十八年勅令第九十四號ニ依リ英國倫敦、北米合衆國紐育及獨逸國ニ於テ英貨公債參千萬磅ヲ募集ス

本公債ハ引受人ヲ定メ引受發行セシム

第二條 本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ四半トス

第二條 本公債ノ元金ハ明治五十八年七月十日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治四十二年七月十日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店、橫濱正金銀行紐育出張所及別ニ獨逸國內ニ定ムル場所ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第四條 本公債ノ利子ハ毎年一月十日及七月十日ニ於テ各其ノ月末マテノ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第五條 本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ二十磅、百磅及二百磅ノ三種トス

英貨ト米貨及獨貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙、獨貨二十麻四十五布トス

第六條 本公債元金ノ償還ハ煙草專賣益金ヲ以テ擔保ス但シ其ノ順位ハ明治三十八年三月發行四分半利付英貨公債三千萬磅ノ次トス

明治三十八年三月發行四分半利付英貨公債償還ノ後ハ本公債ハ煙草專賣益金ヲ以テ優先ニ擔保セラルヘシ

第七條 本公債發行價格ハ額面百磅ニ付九十磅トス

第八條 本公債ノ元金ハ明治三十八年七月ヨリ同年十二月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十九年一月十日ニ於テ全半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

第六款 國債整理ノ爲外國ニ於テスル

公債募集ニ關スル件

勅令第二百四十一號(明治三十八年十一月)

第一條 政府ハ國債整理ノ爲明治三十七年法律第一號及同三十八年法律第十二號ニ依リ四分

銀行會社法令大全 第五編 第一章第十節第六款國債整理ノ爲外國ニ公債募集ノ件 三百五十三

利付英貨公債五千萬磅ヲ發行ス

三百五十四

第二條 前條英貨公債五千萬磅ノ内貳千五百萬磅ハ發行價格額面百磅ニ付九十磅ヲ以テ英國倫敦、佛國巴里、北米合衆國紐育及獨逸國ニ於テ募集シ貳千五百萬磅ハ明治三十七年五月及同年十一月英國倫敦及北米合衆國紐育ニ於テ募集シタル六分利付英貨公債貳千貳百萬磅ノ引換又ハ償還ニ充用スル爲發行ス其ノ引換ノ方法及時期ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 前條六分利付英貨公債引換又ハ償還ニ充用スル爲發行スル公債ノ内引換餘剩高ハ現金ヲ以テ之ヲ募集ス募集ノ時期及發行價格ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本公債ノ元金ハ明治六十四年一月一日ニ於テ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス但シ明治五十四年一月一日以後ハ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ六箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告シ其ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

一部償還ノ場合ニハ橫濱正金銀行倫敦支店ニ於テ慣例ニ從ヒ抽籤ヲ執行シ當籤シタル公債證券ノ記番號ハ元金仕拂ノ期日ヨリ一箇月前ニ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第五條 本公債ノ利子ハ毎年一月一日及七月一日ニ於テ前六箇月分ヲ仕拂フヘシ

第六條 本公債證券ハ無記名利札附トシ英貨ヲ以テ其ノ金額ヲ記載シ拾磅、貳拾磅、百磅及貳百磅ノ四種トス

英貨ト米貨、獨貨及佛貨トノ換算率ハ英貨一磅ニ付米貨四弗八十七仙、獨貨二十麻四十五布トシ佛貨ハ英貨一磅ニ付最低率ヲ二十五法ト定メ仕拂期日ニ於ケル英佛全國間ノ爲替相場ニ依ルモノトス

第七條 本公債ノ元金ハ明治三十八年十二月ヨリ同三十九年五月マテニ拂込ムヘシ

前項公債募集金ニ對シテハ明治三十九年一月一日及同年七月一日ニ於テ各全半箇年分ノ利子ヲ仕拂フヘシ

第七款 臨時事件費支辨及公債規程

第一 臨時事件費支辨ニ關スル件

法律第一號(明治三十九年)

第一條 臨時事件費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ、特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

前項ノ一時借入金及公債ノ額ハ通シテ參億六千萬圓以内トス

第二條 臨時事件ニ因リテ生シタル陸海軍所屬ノ復舊其ノ他ノ事業ニ要スル經費及滿韓軍備ニ關スル臨時費支辨ノ爲政府ハ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコト

ヲ得

前項公債ノ額ハ七千萬圓以内トス

第三條 本法ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前二條ノ制限以外ニ公債ヲ募集シ又一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第四條 前三條ニ依ル一時借入金、特別會計ニ屬スル資金繰替及公債ヲ整理償還スル爲必要アル場合ニ於テハ第一條及第二條ノ制限以外ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

第五條 政府ハ臨時軍事費出納上一時ノ不足ヲ補充スル爲其ノ歳入ヲ以テ償還スヘキ大藏省證券ヲ發行スルコトヲ得

前項大藏省證券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外總テ大藏省證券條例ヲ適用ス

第六條 一時借入金及公債ノ利率、募集借入ノ方法規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ニ依リテ發行スル公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

第二 臨時事件公債規程

臨時事件公債規程(明治三十九年二月大藏省令第八號) (同三十九年同省令第二三號ヲ以テ改)

第一條 政府ハ明治三十九年法律第一號ニ依リ臨時事件公債貳億圓ヲ募集ス

第二條 臨時事件公債ノ利率ハ一箇年百分ノ五トス

第三條 臨時事件公債ノ證券ハ大日本帝國政府五分利公債證書トス

第四條 臨時事件公債ノ元金ハ明治三十九年ヨリ五箇年据置キ其ノ翌年ヨリ向二十五箇年以

内ニ償還スルモノトス

第五條 臨時事件公債ノ利子ハ毎年六月及十二月ニ於テ支拂フモノトス

第六條 臨時事件公債ノ發行價格ハ證券額面百圓ニ付其ノ最低ヲ九拾五圓トス

第七條 臨時事件公債ノ應募申込期間ハ明治三十九年三月八日ヨリ同月二十日マテトス但シ

取扱銀行ハ應募者ノ便宜ニヨリ三月八日前ト雖モ申込ヲ受クルコトヲ得

第八條 應募者ハ應募高、應募價格及住所氏名ヲ詳記シタル申込書ニ申込高百圓ニ付金五圓

ノ保證金ヲ添ヘ日本銀行本支店其ノ他日本銀行ノ定ムル申込所ニ申込ムヘシ但シ保證金ニ

ハ利子ヲ付セズ

前項ノ應募價格ニハ拾錢位ニ滿タサル端數ヲ付スルコトヲ得ス

第九條 臨時事件公債ノ應募高、需要額ヲ超過スルトキハ其ノ價格ノ高キモノヨリ順次之ヲ採リ需要額ニ滿ツルニ至リテ止ム其ノ價格同シキモノハ申込ノ高ニ割合ヒ減少シ割當高五拾圓ニ滿タサルモノハ之ヲ除キ更ニ之ヲ五拾圓以上ノ分ニ配當ス

第十條 申込ハ明治三十九年三月三十一日マテニ確定スルモノトス
前項確定ノ上ハ其ノ旨ヲ申込人ニ通知スヘシ

第十一條 前條第二項ノ規定ニ依リ募入決定ノ通知ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ拂込ヲ爲スヘシ但シ第一期拂込ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツ

第一期 明治三十九年三月三十一日 金五圓(證券額面百圓ニ付)

第二期 同年四月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金十五圓(同上)

第三期 同年五月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金貳拾圓(同上)

第四期 同年六月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金拾五圓(同上)

第五期 同年七月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金貳拾圓(同上)

第六期 同年八月十六日ヨリ同月二十五日マテ 金貳拾圓(同上)

最低發行價格以上ノ申込ヲ爲シタル者ハ第二期拂込ト共ニ其ノ差額ヲ拂込ムヘシ

第十二條 應募者ノ都合ニ由リ後ノ一期若ハ數期分ヲ前期ニ繰上ケ拂込ヲ爲スコトヲ得

第二期ニ於テ全部ノ拂込ヲ完了シタル者ニハ證券額面百圓ニ付金八拾錢ノ割合ニ依リ割引ヲ爲スコトヲ得

第十三條 第四回及第五回國庫債券ハ臨時事件公債應募拂込ノ現金ニ代用スルコトヲ得

前項ノ代用價格ハ其ノ額面金額ニ償還期限ノ月マテニ屬スル利子ノ未拂金額ヲ加ヘタルモノニ依ル

第十四條 第四回及第五回國庫債券ヲ以テ臨時事件公債應募拂込ノ現金ニ代用セントスル者ハ應募申込ノ際其ノ債券ノ額面金額ヲ豫告シ若ハ該債券ヲ取扱銀行ニ預託シ置クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國庫債券ヲ預託スル場合ニ於テハ保證金ヲ納ムルコトヲ要セス

第十五條 國庫債券代用ノ豫告ヲ爲シ若ハ國庫債券ヲ預託シタル者ノ應募高ハ第九條ノ規定ニ依リ割合減少ヲ爲ス場合ニ於テ優先ニ募入セラルルモノトス

第十六條 國庫債券代用ノ豫告ヲ爲シタル者ハ代用債券ノ償還期限ニ拘ラス第二期ニ於テ其ノ代用債券ヲ取扱銀行ニ提供スヘシ

豫告ヲ爲シタル者ノ保證金ハ第十一條第一項但書ノ規定ニ依ラス其ノ代用債券ノ提供アリタルトキ之ヲ還付ス

第十七條 前條ニ依リ提供シタル國庫債券又ハ預託シタル國庫債券ハ其ノ償還期限ニ拘ラス

第二期ニ於テ現金ノ拂込ニ代用納付シタルモノト看做ス

第十八條 豫告若ハ預託ヲ爲ササリシ國庫債券ハ其ノ償還期限以後ニ非サレハ代用納付スルコトヲ得ス

第十九條 國庫債券代用價格ノ金額カ拂込ムヘキ現金ノ額ヲ超過スルトキハ償還期限ニ拘ラズ其ノ拂込ノ時ニ於テ該超過額ニ相當スル現金ヲ拂戻スヘシ

第二十條 臨時事件公債ノ明治三十九年六月及十二月渡ノ利子ハ證券額面百圓ニ付金貳圓五拾錢ノ割合ヲ以テ之ヲ支拂フモノトス但シ明治三十九年六月渡ノ利子ハ第三期マテノ拂込ヲ了リタル後ニ非サレハ之カ仕拂ヲ爲サス

第二十一條 臨時事件公債ノ拂込ヲ延滞シタル者アルトキハ拂込期限ノ翌日ヨリ現拂込ノ日マテ金百圓ニ付日歩金四錢ノ割合ヲ以テ利子ヲ徴スヘシ
拂込期限後三箇月ヲ過キ尙拂込ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無効トス既ニ拂込ミタル金額ハ之ヲ沒收ス

第二十二條 國庫債券代用ノ豫告ヲ爲シタル者カ其ノ豫告ニ從ヒ代用債券ノ提供ヲ爲ササルトキハ應募ノ申込ヲ無効トシ保證金ハ之ヲ沒收ス

第二十三條 第四回及第五回國庫債券ノ代用ニ關スル前各條ノ規定ハ其假債券ニ之ヲ適用ス

但シ代用ノ假債券ハ之ヲ無記名本債券ト看做シテ取扱フモノトス

第二十四條 代用ノ豫告ヲ爲シ若ハ取扱銀行ニ預託シタル記名國庫債券ニ付テハ記名書換及所管店轉換ノ取扱ヲ爲ササルモノトス但シ相續、遺贈及強制執行ニ因リ記名書換ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 臨時事件公債ノ應募者第二期ノ拂込ヲ了シタルトキハ記名ノ假證書ヲ交付シ全額拂込ノ上之ヲ引換ニ本證書ヲ交付ス

第二十六條 臨時事件公債ノ假證書ハ賣買讓與シ及質トナスコトヲ得

前項ノ取扱ニ關シテハ明治二十七年大藏省令第十七號ヲ準用ス但シ應募者カ拂込ヲ爲スニ當リ供託又ハ質入等ノ事故ニ因リ假證書ヲ呈示スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ旨ヲ證明スルトキハ同令第三條ニ依リ其ノ拂込ヲ假證書ニ記入スル代リニ之ニ對シテ假ニ領收證書ヲ發スルコトアルヘシ

第二十七條 第二十一條第二項ノ規定ニ依リ無効ト爲リタル假證書ヲ所持スル者ハ速ニ之ヲ

日本銀行本支店又ハ代理店ニ返還スヘシ

第二十八條 假證書ヲ紛失シ又ハ滅失シタル者ハ二名以上ノ保證人ヲ立テ其ノ事實ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ證明シ代假證書ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル後原假證書ヲ發見シタル者ハ速ニ其ノ旨ヲ日本銀行本支店又ハ代理店ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ既ニ代假證書ノ交付ヲ了リタルトキハ原假證書ヲ返還セシム其ノ交付手續中ニ係ルモノモ時宜ニ由リ返還セシムルコトアルヘシ

第二十九條 (削除)

第十一節 國庫債券

第一款 財政上必要處分ノ件

勅令第二百九十一號(明治三十六年十月)

第一條 軍備ノ補充ニ要スル經費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第二條 京釜鐵道株式會社ノ線路工事速成ニ必要ナル資金ノ調達ニ便宜ヲ與フル爲政府ハ同會社ノ發行スル債券ニ對シ元利仕拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ保證スヘキ債券ハ額面壹千萬圓ヲ限リ其ノ利子ハ一箇年六分以下トシ其ノ元金ハ三箇年据置爾後五箇年以内ニ償還スヘキモノトス

第三條 京釜鐵道株式會社ニ於テ工事ヲ速成スル爲特ニ要スヘキ費用ノ補償トシテ政府ハ同

會社ニ對シ百七拾五萬圓ヲ補助スルコトヲ得但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ其ノ金額ヲ以テ本項ノ費用ヲ償フコト能ハサル場合ヲ生シタルトキハ仍ホ四拾五萬圓以内ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ヲ以テ補償スヘキ費用ノ支拂ニ關シテハ特ニ詳密ナル監督規程ヲ設クルモノトス

第一項ニ依リ補助スヘキ百七拾五萬圓ノ財源ニ充ツル爲政府ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條及第三條ノ場合ニ於テ一時借入金又ハ國庫債券ニ附スヘキ利子ハ一箇年六分以下トシ償還期限ハ一時借入金ニ在リテハ二箇年以内、國庫債券ニ在リテハ五箇年以内トス

國庫債券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

第二款 國庫債券發行規程

國庫債券發行規程(明治三十七年二月大藏省令第四號 同三十九年同省令第二三號迄二次改)

第一條 政府ハ明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依リ國庫債券壹億圓ヲ發行ス

第二條 國庫債券利子ノ割合ハ一箇年百分ノ五トス